

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年6月27日

【事業年度】 第112期(自平成30年4月1日至平成31年3月31日)

【会社名】 関東電化工業株式会社

【英訳名】 KANTO DENKA KOGYO CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 長谷川 淳一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区神田淡路町二丁目105番地

【電話番号】 03(3257)0371(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務部長 井田 宏

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区神田淡路町二丁目105番地

【電話番号】 03(3257)0371(代表)

【事務連絡者氏名】 経理財務部長 井田 宏

【縦覧に供する場所】 関東電化工業株式会社大阪支店
(大阪市北区曽根崎二丁目12番7号)
株式会社 東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第108期	第109期	第110期	第111期	第112期
決算年月	平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月	平成31年3月
売上高 (百万円)	38,362	43,007	46,042	51,309	55,200
経常利益 (百万円)	4,892	8,769	9,416	8,996	9,590
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	4,534	8,068	6,686	6,116	6,552
包括利益 (百万円)	5,797	7,311	7,749	7,222	5,013
純資産額 (百万円)	19,093	26,054	33,169	39,790	44,100
総資産額 (百万円)	50,019	52,960	60,790	70,621	81,601
1株当たり純資産額 (円)	309.74	430.12	557.17	672.14	746.88
1株当たり当期純利益 (円)	78.83	140.25	116.24	106.33	113.91
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	35.6	46.7	52.7	54.7	52.7
自己資本利益率 (%)	30.9	37.9	23.5	17.3	16.1
株価収益率 (倍)	9.8	5.7	8.3	10.1	6.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	5,986	10,749	6,753	7,243	10,664
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,630	2,926	6,530	7,472	9,315
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	3,025	6,406	2,561	3,043	3,616
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	11,480	12,775	10,242	13,154	18,090
従業員数 (名)	723	739	793	815	859

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第112期の期首から適用しており、第111期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次		第108期	第109期	第110期	第111期	第112期
決算年月		平成27年3月	平成28年3月	平成29年3月	平成30年3月	平成31年3月
売上高	(百万円)	34,413	39,016	40,851	46,652	50,632
経常利益	(百万円)	4,199	8,151	8,603	9,031	8,971
当期純利益	(百万円)	3,929	7,734	6,216	6,323	6,226
資本金	(百万円)	2,877	2,877	2,877	2,877	2,877
発行済株式総数	(株)	57,546,050	57,546,050	57,546,050	57,546,050	57,546,050
純資産額	(百万円)	14,486	20,918	27,619	34,007	38,421
総資産額	(百万円)	40,849	43,812	51,013	60,870	69,360
1株当たり純資産額	(円)	251.83	363.65	480.14	591.18	667.92
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額)	(円)	3.00 (-)	7.00 (3.00)	9.00 (4.00)	11.00 (5.00)	13.00 (6.00)
1株当たり当期純利益	(円)	68.30	134.45	108.07	109.94	108.25
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	35.5	47.7	54.1	55.9	55.4
自己資本利益率	(%)	33.4	43.7	25.6	20.5	17.2
株価収益率	(倍)	11.3	6.0	8.9	9.8	6.9
配当性向	(%)	4.4	5.2	8.3	10.0	12.0
従業員数	(名)	554	558	595	611	620
株主総利回り	(%)	293.9	306.8	370.8	420.1	298.9
(比較指標：配当込みTOPIX)	(%)	(130.7)	(116.5)	(133.7)	(154.9)	(147.1)
最高株価	(円)	881	1,098	1,226	1,415	1,280
最低株価	(円)	225	670	715	868	700

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 最高株価および最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第112期の期首から適用しており、第111期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

- 昭和13年9月 関東水力電気興業(株)、旭電化工業(株)(現・(株)A D E K A)および古河電気工業(株)の3社共同出資により、金属マグネシウム、か性ソーダおよび塩酸の製造を目的として資本金400万円で設立。
- 昭和14年11月 群馬県に渋川工場を置き、金属マグネシウム、か性ソーダの操業を開始。
- 昭和20年12月 終戦により金属マグネシウムの製造を全廃、か性ソーダを主とした無機工業薬品を製造。
- 昭和25年9月 トリクロールエチレンの製造を開始。
- 昭和26年11月 株式を店頭公開。
- 昭和27年9月 わが国で最初のパークロールエチレンの製造を開始。
- 昭和31年3月 わが国で最初の直接酸化法によるシクロヘキサノンの製造を開始。
- 昭和35年7月 大阪営業所(現・大阪支店)を新設。
- 昭和36年10月 大崎産業(株)(現・カンデン渋川産業(株))を設立。
東京証券取引所市場第二部に上場。
- 11月 (株)群馬鉄工所を設立。
- 昭和37年10月 名古屋営業所を新設。
- 昭和38年8月 東京証券取引所市場第一部に指定。
- 昭和39年6月 (株)堀口鉄工所へ出資し、(株)上備製作所(現・連結子会社)発足。
- 昭和40年3月 岡山県に水島工場を置き、か性ソーダ、次亜塩素酸ソーダ、およびわが国で最初のエチレン法によるトリクロールエチレン、パークロールエチレンの製造を開始。
- 昭和42年10月 塩化ピニリデンの製造を開始。
- 昭和44年11月 関東運輸(株)(現・関東電化産業(株))を設立。
- 昭和45年9月 当社独自のフッ酸電解技術を確認し、フッ素系ファイン分野に進出。
- 12月 次亜塩素酸ソーダの製造を開始。
- 昭和46年1月 六フッ化硫黄の製造を開始。
- 8月 塩化アルミニウムの製造を開始。
森下弁柄工業(株)との共同出資により、日本酸化鉄工業(株)を設立。
- 昭和50年1月 森下弁柄工業(株)、日本酸化鉄工業(株)および森下弁柄販売(株)の3社合併により森下弁柄工業(株)(現・連結子会社)に資本参加。
- 昭和52年10月 複写機用キャリアーの製造を開始。
- 昭和53年3月 関電興産(株)(現・連結子会社)を設立。
- 昭和54年6月 わが国で最初のメタルテープ用磁性合金粉「MAP」の製造を開始。
- 7月 五フッ化ヨウ素の製造を開始。
- 昭和56年6月 四フッ化炭素の製造を開始。
- 昭和58年10月 三フッ化メタンの製造を開始。
- 昭和59年4月 八フッ化プロパンの製造を開始。
- 昭和61年5月 六フッ化タングステンの製造を開始。
- 6月 渋川・水島両工場のか性ソーダ製造方式を、イオン交換膜法に全面転換。
- 昭和62年3月 三フッ化窒素の製造を開始。
- 昭和63年6月 フェライト・キャリアーの製造を開始。
- 9月 顔料用マグネタイトの製造を開始。
- 平成元年1月 四フッ化ケイ素の製造を開始。
- 7月 水切り乾燥用塩素系溶剤「カンデンドライ」の販売を開始。
- 11月 六フッ化エタンの製造を開始。
- 平成7年10月 渋川工場、フッ素系製品5品目について「ISO9002」の認証を取得。
- 11月 下郷産業(有)(現・カンデン渋川産業(株))に資本参加。
- 平成9年4月 三フッ化塩素の製造を開始。
- 5月 水島工場にフッ酸電解設備を新設。
- 8月 水島工場で、六フッ化リン酸リチウムの製造を開始。
- 平成10年3月 水島工場、「ISO9002」の認証を取得。

- 平成11年 5月 渋川工場、水島工場「ISO14001」の認証を取得。
6月 上備産業(有)(現・カンデン水島産業(株))に資本参加。
- 平成12年 4月 渋川工場、「ISO9001」の認証を取得。
5月 水島工場、「ISO9001」の認証を取得。
11月 韓国に関東電化KOREA(株)(現・連結子会社)を設立。
- 平成14年 9月 台湾に駐在員事務所を新設。
- 平成16年 7月 台湾駐在員事務所を格上げし、台湾関東電化股份有限公司(現・連結子会社)を設立。
- 平成17年 1月 磁性合金粉「MAP」の製造を中止。
8月 渋川工場ソーダ電解事業から撤退。
10月 大崎産業(株)、下郷産業(株)の合併によりカンデン渋川産業(株)に資本参加。
ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエンを上市。
- 平成22年 4月 モノフルオロメタン、硫化カルボニルを上市。
- 平成23年 6月 上海に科地克(上海)貿易有限公司を設立。
- 平成29年 4月 ホウフッ化リチウムを上市。
11月 韓国に関東電化ファインプロダクツ韓国(株)(現・連結子会社)を設立。
- 平成30年 5月 シンガポールに台湾関東電化股份有限公司シンガポール支店を設立。

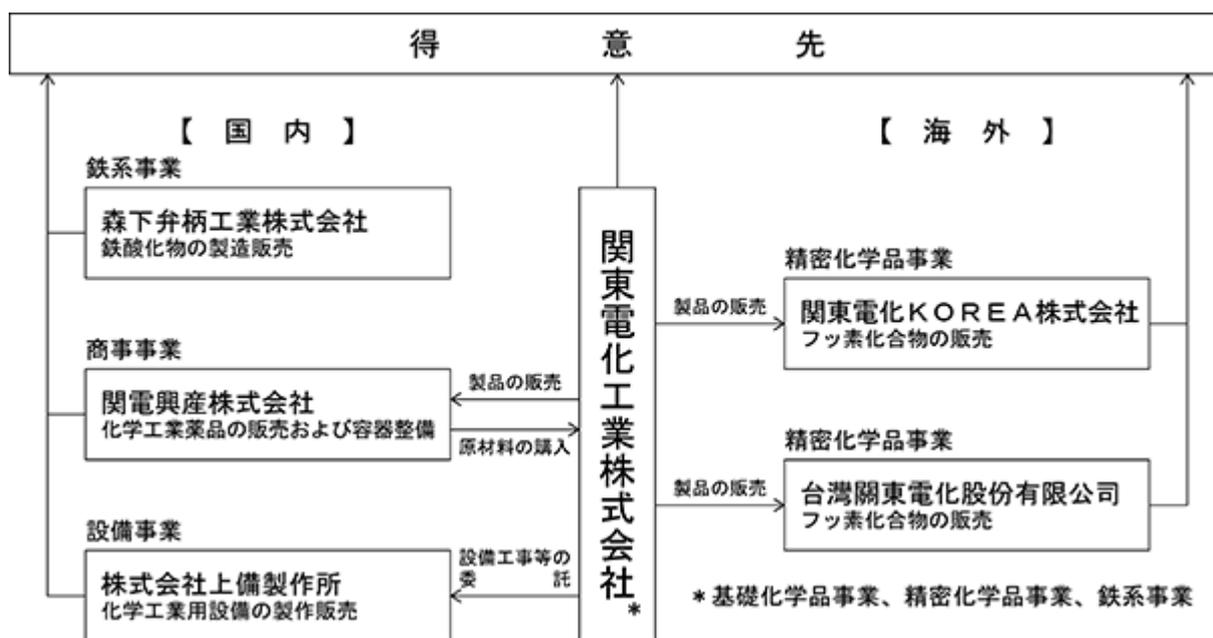
3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、連結子会社6社、非連結子会社5社で構成され、無機・有機化学薬品等の基礎化学品事業、フッ素系ガスおよび電池材料等の精密化学品事業、キャリアーおよび鉄酸化物等の鉄系事業、製品販売等の商事事業および化学工業用設備工事等の設備事業を展開しております。

当社および連結子会社の当該事業に係わる位置付けは、次のとおりであります。

基礎化学品事業	当社が製造販売しております。
精密化学品事業	当社が製造販売しております。また、関東電化KOREA(株)は韓国で、台湾関東電化股份有限公司は台湾で、それぞれ当社製品を販売しております。関東電化ファインプロダクツ韓国(株)は、現在韓国に製造拠点を建設中です。
鉄系事業	当社が鉄系製品を製造販売するほか、森下弁柄工業(株)が鉄酸化物を製造販売しております。
商事事業	関電興産(株)は、当社製品を販売し、当社は、同社より原材料を購入しております。また、同社は、フッ素系ガスの容器整備を行っております。
設備事業	(株)上備製作所は、化学設備関連および一般産業用の工事を行い、当社は、同社に対して設備等の設計、建設、保全工事等を委託しております。

以上述べた連結子会社と当社との関係を事業系統図に示すと次のとおりであります。



なお、非連結子会社と当社との関係は、次のとおりであります。

当社は、カンデン渋川産業(株)、カンデン水島産業(株)に対しては、工場内作業等を、(株)群馬鉄工所には、工場設備の建設・保全工事等を、関東電化産業(株)には、各種環境測定・分析業務等を委託しております。

科地克(上海)貿易有限公司は、中国で当社製品の販売と原材料の調達を行っております。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 関電興産(株) (注) 2	東京都中央区	10百万円	商事事業	100.0	当社製品の一部販売並びに原材料等の購入、容器整備、保険代理店役員の兼任等……有
(株)上備製作所 (注) 3	東京都千代田区	120百万円	設備事業	49.4	化学工業用設備の製作並びに加工、修理役員の兼任等……有
森下弁柄工業(株)	三重県伊賀市	27百万円	鉄系事業	99.3	鉄系製品の製造役員の兼任等……有
関東電化KOREA(株) (注) 2, 4	韓国 ソウル特別市	300百万WON	精密化学品事業	90.0	当社製品の一部販売役員の兼任等……有
台湾関東電化股份有限公司	台湾 新竹市	7百万NTドル	精密化学品事業	100.0	当社製品の一部販売役員の兼任等……有
関東電化 ファインプロダクツ韓国(株) (注) 2	韓国 天安市	21,500百万WON	精密化学品事業	100.0	資金の貸付 債務保証 役員の兼任等……有

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 関電興産(株)、関東電化KOREA(株)および関東電化ファインプロダクツ韓国(株)は特定子会社に該当していません。
3. 持分は100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているため子会社としております。
4. 関東電化KOREA(株)については売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

	関東電化KOREA(株)
(1) 売上高	12,402百万円
(2) 経常利益	413百万円
(3) 当期純利益	324百万円
(4) 純資産額	3,346百万円
(5) 総資産額	4,683百万円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成31年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
基礎化学品事業	49
精密化学品事業	392
鉄系事業	55
商事事業	44
設備事業	100
全社(共通)	219
合計	859

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成31年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
620	40.2	17.4	7,392,179

セグメントの名称	従業員数(名)
基礎化学品事業	49
精密化学品事業	338
鉄系事業	14
全社(共通)	219
合計	620

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社および関電興産(株)の労働組合(組合員数489人)は、各事業所にそれぞれ支部をもつ単一組合であり、上部団体は日本化学エネルギー産業労働組合連合会に加盟しております。また、(株)上備製作所高崎工場の労働組合(組合員数41人)は、産業別労働組合J・A・Mに加盟しており、森下弁柄工業(株)の労働組合(組合員数18人)は、連合三重オプザーパー加盟であります。

なお、それぞれの労働組合の労使関係は極めて安定しており、現在組合との間に特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「会社の永遠の発展を追求し、適正な利益を確保することにより、株主、ユーザー、従業員とともに繁栄する企業を目指して豊かな社会づくりに貢献する。」を経営の理念としております。これを実現するために、当社独自の技術と心のこもったサービスでユーザーの期待に応え、誠意・創造性・迅速な対応・自然との調和をモットーに、信頼される企業を築き上げるべく全社をあげて事業の発展に取り組んでまいります。

(2) 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

当社グループは、令和元年度より、新中期経営計画をスタートさせております。本計画においては、精密化学品事業の拡大推進と競争力を育成するとともに、新事業創出による成長基盤の強化を目標とします。令和6年度の連結売上高1,000億円達成を目指し、「精密化学品事業の拡大推進」、「生産技術力の底上げ」、「新規事業の早期創出」、「グループ総合力強化」、「ESGシフトと企業価値向上」を図ってまいります。

また、「安全第一主義」、「稼ぐ関東電化の実現」、「全員開発」を企業活動の基本課題とし、10年後のありたい姿を見据え、安定した経営基盤のもと、安全で働きがいを実感できる環境を提供し、独自性・優位性のある製品で世界最先端の技術を支え、社会に貢献する「創造的開発型企業」を目指してまいります。

精密化学品事業の拡大推進

グローバル最適生産・販売体制を確立し、地産地消による利益最大化を実現する。また、海外生産拠点の安定稼働を実現させ、顧客密着と顧客提案力強化により新製品開発のスピードを加速させる。

生産技術力の底上げ

既存技術の深化、革新的製造技術の確立、品質評価能力の向上により競合他社に負けない高品質とコストダウンを実現させる。また、急速なデジタル化の進展に対応するため、IoT・AIを活用した生産の革新、業務の効率化を推進する。

新規事業の早期創出

研究開発部門の活性化を図り多様な人材を育成するとともに、当社の基盤技術と優位性を活かした新規製品の開発を強化する。また、当社収益の柱となる製品の早期市場投入と、新事業創出を推進する。

グループ総合力強化

「安全第一主義」を徹底し、グループ企業と一体となって長期的な成長を促す組織づくりを実現させる。また、グローバルな人材を確保し、育成を強化することで、海外事業戦略の拡大と充実を図る。

ESGシフトと企業価値向上

企業価値向上と社会的貢献を果たすためESG*、SDGs*を意識した経営を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。また、ダイバーシティ・マネジメントを推進し、多様な人材を育成するとともに、活気と働きがいのある職場を構築する。

*ESG：Environment（環境）、Social（社会）、Governance（企業統治）の頭文字。企業経営や成長において、各々の観点を持った上で配慮が必要だという考え方。

*SDGs：「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、平成27年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標。

(3) 株式会社の支配に関する基本方針について

当社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方についての基本方針(概要)

(以下「本基本方針」といいます。)

当社は、公開会社として当社株式の自由な売買を認めております。従いまして、「当社の財務および事業の方針の決定を支配する者」を誰にするかは、最終的には株主の皆様のご意向が反映されるべきものと考えており、当社株券等の大規模買付行為につきましても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上の観点から、不適切または不十分なものでない限り、これを否定するものではありません。

しかしながら、大規模買付者のなかには、当社取締役会や株主に対して、当該大規模買付者が「当社の財務および事業の方針の決定を支配する者」として適切か否かを判断するための十分な情報や時間を提供しない者もないとはいえません。また、大規模買付行為の目的等から見て、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対して明白な侵害をもたらすものや、株主に対して当社株券等の売却を事実上強要するもの等、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上の観点から、不適切または不十分な者もないとはいえません。

以上より、当社取締役会は、大規模買付者に対して、当社が設定し事前に開示する一定のルール(以下「大規模買付ルール」といいます。)に従って、当該買付行為を開始するよう要請しております。

本基本方針の実現に資するための企業価値向上の取組み(概要)

当社は、経営方針として、「会社の永遠の発展を追求し、適正な利益を確保することにより、株主、ユーザー、従業員と共に繁栄する企業を目指して豊かな社会づくりに貢献する。これを実現するために、当社独自の技術と心のこもったサービスでユーザーの期待に応え、誠意・創造性・迅速な対応・自然との調和をモットーに信頼される関東電化を築き上げる。」ことを掲げております。つまり、当社は、「企業価値を高めるとともに豊かな社会づくりに貢献する」ことを企業目標にしており、この実現のために、株主、地域社会、ユーザー、従業員等のステークホルダーの皆様と良好な関係を築くことに取り組んでおります。

また、当社の企業価値の源泉は、地道な研究活動から生み出される「当社独自の技術」であり、その土台は、「人を大切に作る企業風土」と「まじめで誠実な従業員」と考えております。一方、昭和13年の会社設立以来、電解等の専門技術やノウハウ、とりわけ、高純度のフッ素を効率よく大量に発生させるフッ酸電解技術、および、電池材料、医薬品等幅広い応用分野を持つフッ素関連技術についての知識を蓄積し、今日に至っております。今後も、人材力を高めつつ、蓄積された専門技術等を活かして「当社独自の技術」を生み出し続け、企業価値を高めるとともに豊かな社会づくりに貢献してまいりたいと考えております。

本基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み(概要)

当社は、本基本方針に沿って、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上を目的として、平成30年6月28日開催の株主総会において、「当社株券等の大規模買付行為への対応方針(買収防衛策)」(以下「本対応方針」といいます。)を決定し、そのなかで「大規模買付ルール」を定めております。その骨子は、ア.当社は、大規模買付者に対して大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報の提供を求め、イ.当社取締役会のため一定の評価期間を確保した上で、ウ.当社取締役会が株主の皆様当社経営陣の計画、代替案等の提示や、大規模買付者との交渉を行い、エ.当該大規模買付行為に対し対抗措置を発動するか否かについて原則として株主の皆様意思を確認するための株主総会等を開催する手続を定め、かかる株主の皆様意思を確認する機会を確保するため、大規模買付者には、ア.からエ.の手続が完了するまで大規模買付行為の開始をお待ちいただくことを要請する、というものです。

(注) なお、本対応方針の詳細については、当社ホームページ(<https://www.kantodenka.co.jp/>)で公表している平成30年5月15日付プレスリリース「当社株券等の大規模買付行為への対応方針(買収防衛策)に関するお知らせ」をご参照ください。

本対応方針が本基本方針に沿うものであること、当社の株主の共同の利益を損なうものではないこと、および当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないこと、並びにその理由

ア．本対応方針が本基本方針に沿うものであること

本対応方針は、大規模買付者が大規模買付行為に関する必要かつ十分な情報を当社取締役会に事前に提供すること、および当社取締役会のための一定の評価期間が経過し、株主の皆様が当社取締役会が対抗措置をとることの是非を、原則として株主総会等において直接的に確認した後にのみ当該大規模買付行為を開始することを求め、これを遵守しない大規模買付者に対して当社取締役会が対抗措置を講じることがあることを明記しています。また、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の中長期的な確保・向上の観点から、不適切または不十分なものと当社取締役会が判断した場合、原則として当社株主総会等における株主の皆様のご判断に基づいて、かかる大規模買付者に対して対抗措置を講じることがあることを明記しています。このように本対応方針は、本基本方針の考え方に沿って設計されたものであります。

イ．本対応方針が当社株主の共同の利益を損なうものではないこと

本対応方針は、本基本方針の考え方に沿って設計され、当社株主の皆様が大規模買付行為に応じるか否かを判断するために必要な情報や当社取締役会の意見の提供、代替案の提示を受ける機会の提供を保障し、最終的には大規模買付行為の提案を受けた時点における株主の皆様により対抗措置の発動の是非を判断していただくことを目的としております。本対応方針によって、当社株主および投資家の皆様は適切な投資判断を行うことができますので、本対応方針は当社株主の共同の利益を損なうものではなく、むしろその利益に資するものであります。

ウ．本対応方針が当社役員の地位の維持を目的とするものではないこと

本対応方針は、大規模買付行為を受け入れるか否かが最終的には当社株主の皆様判断に委ねられるべきことを大原則としつつ、当社株主共同の利益を守るために必要な範囲で大規模買付ルールの遵守の要請や対抗措置の発動を行うものです。本対応方針は当社取締役会が対抗措置を発動する場合を事前かつ詳細に開示しており、当社取締役会による対抗措置の発動はかかる本対応方針に従って行われます。また、大規模買付行為に関して当社取締役会が対抗措置をとる場合には、原則として、株主総会等を開催して株主の判断を仰ぐこととしており、例外的に取締役会決議限りで判断を行う場合その他本対応方針に係る重要な判断に際しては、必要に応じて外部専門家等の助言を得るとともに、当社の業務執行を行う経営陣から独立している委員で構成される特別委員会へ諮問し、同委員会の勧告を最大限尊重するものとされています。このように、本対応方針には、当社取締役会による適正な運用を担保するための手続きも盛り込まれています。以上から、本対応方針が当社役員の地位の維持を目的とするものではないことは明らかであります。

2 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績および財務状況等に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、ここに記載した事項は、有価証券報告書提出日現在において、当社グループがリスクとして判断したものでありますが、当社グループに係る全てのリスクを網羅したものではありません。

(1) 事業環境の変化

当社グループの主力製品は半導体・液晶用フッ素系製品であり、半導体・液晶業界の動向が、業績に影響を与える可能性があります。また、当社グループ製品の川下における技術革新により、関係する製品に対する需要そのものがなくなる可能性があります。

(2) 競争の激化

当社グループは、韓国・中国・台湾メーカーとの激しい競争を繰り広げております。当社製品の技術・品質面での優位性がなくなり、韓国・中国・台湾メーカーとの価格競争となった場合には、販売シェアのダウンまたは販売価格低下により、業績に影響を与える可能性があります。

(3) 海外事業活動

当社グループは、東アジアを中心に海外事業活動を強化しておりますが、地域によっては政治的および社会的なリスクがあり、これらのリスクが発生した場合、業績に影響を与える可能性があります。

(4) 原燃料価格の変動および調達状況

当社グループは、電力が最大の原材料であります。また、当社グループは、原材料として、リチウム化合物、無水フッ酸、タングステン、工業塩、エチレン等を購入しております。製造にあたっては、効率的な資材購入と製品価格への転嫁を図っておりますが、電力をはじめ原燃料の価格変動や調達状況が、業績に影響を与える可能性があります。

(5) 新規製品の開発の遅れ

当社グループは、収益の柱となるような新規製品の開発に経営資源を投入しておりますが、開発が計画どおりに進捗しない場合や、開発した製品が市場投入時に市場ニーズにマッチしない場合には、業績に影響を与える可能性があります。

(6) 事故災害

当社グループは、安全には万全を期しておりますが、万一、当社工場にて大規模事故災害が発生した場合には、社会的信用の失墜、補償などの費用の発生、生産活動停止に伴う機会損失等により、業績に影響を与える可能性があります。

(7) 製造・品質トラブル

当社グループは、安定運転、品質の維持に努めておりますが、製造トラブルや品質トラブルが発生し、その回復に時間がかかる場合には、業績に影響を与える可能性があります。

(8) 自然災害

当社グループは、地震等の自然災害や感染症の流行に対しては各種訓練や防災対策、事業継続対策は行っておりますが、災害等により製造拠点等が影響を受けた場合には、業績に影響を与える可能性があります。

(9) 環境規制

当社グループは、化学物質を取り扱う企業として環境対策に万全を期しておりますが、万一、有害物質が社外に流出した場合には、社会的信用の失墜、補償などの費用の発生、生産活動停止に伴う機会損失等により、業績に影響を与える可能性があります。また、当社グループは、土壌・地下水汚染、大気汚染、水質汚濁、廃棄物処理等各種の環境規制に服しています。これらの規制の動向等により、過去、現在および将来の当社グループの事業活動に関し、法的または社会的責任の観点から対応を行う場合は、業績に影響を与える可能性があります。

(10) 資金調達

当社グループは、金融機関から資金を調達しております。金利スワップによるヘッジは行っておりますが、金利が大幅に上昇した場合は金利負担が増加し、業績に影響を与える可能性があります。

(11) 法令・規制

当社グループは、事業活動を行うにあたって、各種の法令・規制に服しております。グループをあげてコンプライアンスの遵守に注力しておりますが、重大な法令違反があった場合には、業績に影響を与える可能性があります。

(12) 知的財産の保護

当社グループは、事業の優位性確保のため、新規開発技術の特許保護を重視する戦略をとっておりますが、開発した技術やノウハウの外部への流失や、知的財産権についての係争により、業績に影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(1) 経営成績等の状況の概要

業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、輸出や生産の一部に弱さがみられたものの、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調が続きました。一方、海外においては、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の不確実性、金融資本市場の変動リスクについても留意する必要性があり、先行き不透明な状況が続きました。

化学工業におきましても、各種資源価格の上昇や、中国経済の減速等もあり、引き続き厳しい事業環境にありました。

このような情勢下におきまして、当社グループは、基礎化学品事業、精密化学品事業および鉄系事業の収益力を強化するとともに、当社の強みであるフッ素関連技術を活かした新規製品の開発に取り組んでまいりました。

当連結会計年度の売上高は、精密化学品事業部門の販売数量増加や、基礎化学品事業部門の価格修正効果などにより、552億00百万円と前期に比べ38億91百万円、7.6%の増加となりました。損益につきましては、経常利益は、95億90百万円と前期に比べ5億93百万円、6.6%の増加となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、65億52百万円と前期に比べ4億35百万円、7.1%の増加となりました。

なお、セグメント別の概況は、次のとおりであります。

ア．基礎化学品事業部門

(無機製品)

か性ソーダは、販売数量は減少したものの価格修正効果により、前期に比べ増収となりました。塩酸は、販売数量の減少により、前期に比べ減収となりました。

(有機製品)

塩素系有機製品につきましては、トリクロールエチレンは、販売数量の増加により、前期に比べ増収となりました。パークロールエチレンは、前期並の売上高となりました。

以上の結果、基礎化学品事業部門の売上高は、68億18百万円となり、前期に比べ7億99百万円、13.3%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益2億71百万円となりました(前期は営業損失44百万円)。

イ．精密化学品事業部門

(特殊ガス製品)

半導体・液晶用特殊ガス類につきましては、三フッ化窒素は、販売数量の減少により、前期に比べ減収となりました。六フッ化タンゲステンは、販売数量の増加により、前期に比べ増収となりました。

(電池材料製品)

電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量の増加により、前期に比べ増収となりました。

以上の結果、精密化学品事業部門の売上高は、414億00百万円となり、前期に比べ34億67百万円、9.1%の増加となりました。営業損益につきましては、原燃料費用の上昇や固定費の増加などにより、営業利益83億52百万円となり、前期に比べ1億04百万円、1.2%の減少となりました。

ウ．鉄系事業部門

複写機・プリンターの現像剤用であるキャリアーは、販売数量は減少したものの、新規製品への切り替えが進み、前期並の売上高となりました。鉄酸化物は、着色剤の販売減少により、前期に比べ減収となりました。

以上の結果、鉄系事業部門の売上高は、24億83百万円となり、前期に比べ29百万円、1.2%の減少となりました。営業損益につきましては、営業利益4億63百万円となり、前期に比べ83百万円、15.3%の減少となりました。

エ．商事事業部門

商事事業につきましては、化学工業薬品の販売増加により、前期に比べ増収となりました。

以上の結果、商事事業部門の売上高は、23億41百万円となり、前期に比べ26百万円、1.1%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益1億26百万円となり、前期に比べ32百万円、34.6%の増加となりました。

オ．設備事業部門

化学設備プラントおよび一般産業用プラント建設は、請負工事の減少により、前期に比べ減収となりました。

以上の結果、設備事業部門の売上高は、21億55百万円となり、前期に比べ3億72百万円、14.7%の減少となりました。営業損益につきましては、工事原価の改善により、営業利益3億42百万円となり、前期に比べ2億36百万円、222.4%の増加となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末(以下「前期末」という)に比べ49億36百万円増加し、180億90百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、106億64百万円となりました(前年同期は72億43百万円の資金の獲得)。これは主に、売上債権の増加額が13億51百万円、たな卸資産の増加額が10億84百万円、法人税等の支払額が28億74百万円となったことにより減少した一方で、税金等調整前当期純利益が94億73百万円、減価償却費が50億50百万円となったことにより増加したものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、93億15百万円となりました(前年同期は74億72百万円の資金を使用)。これは主に、精密化学品事業部門のうち、半導体・液晶用特殊ガス類製造設備の成長投資やその他の維持投資ならびに海外子会社における製造設備の新設に伴う有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により獲得した資金は、36億16百万円となりました(前年同期は30億43百万円の資金の獲得)。これは主に、長期借入金の返済による支出が12億71百万円、配当金の支払額が6億90百万円となった一方で、長期借入れによる収入が61億48百万円となったことによるものであります。なお、長期借入れによる収入につきましては、主に精密化学品事業部門のうち、半導体・液晶用特殊ガス類製造設備の成長投資やその他の維持投資ならびに海外子会社における製造設備の新設の目的によるものであります。

生産、受注及び販売の状況

ア．生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
基礎化学品事業	6,977	10.5
精密化学品事業	37,902	12.0
鉄系事業	2,517	4.2
設備事業	4,214	1.2
合計	51,612	9.7

- (注) 1．セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2．金額は、基本的に販売価格によっておりますが、設備事業の金額は、当連結会計年度の製造費用によっております。
 3．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

イ．受注状況

当連結会計年度の設備事業の受注状況を示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
設備事業	2,420	9.3	1,348	24.5
合計	2,420	9.3	1,348	24.5

- (注) 1．セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

ウ．販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
基礎化学品事業	6,818	13.3
精密化学品事業	41,400	9.1
鉄系事業	2,483	1.2
商事業	2,341	1.1
設備事業	2,155	14.7
合計	55,200	7.6

- (注) 1．セグメント間取引については、相殺消去しております。
 2．最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)		当連結会計年度 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
Samsung Electronics Co., Ltd.	9,396	18.3	11,076	20.1

- 3．上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

文中における将来に関する記述は、有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表作成にあたって、必要と思われる見積りは合理的な基準に基づいて実施しております。詳細につきましては、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1)連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項」に記載のとおりであります。

財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産は816億01百万円となり、前期末に比べ109億80百万円増加しました。

(流動資産)

流動資産は469億64百万円で、前期末に比べ71億20百万円増加しました。その主な要因は、現金及び預金が49億55百万円、受取手形及び売掛金が10億76百万円、たな卸資産が9億89百万円増加したためであります。

(固定資産)

固定資産は346億36百万円で、前期末に比べ38億59百万円増加しました。その主な要因は、投資有価証券が19億50百万円減少した一方で、有形固定資産が51億68百万円、繰延税金資産が7億51百万円増加したためであります。なお、有形固定資産の増加につきましては、主に精密化学品事業部門のうち、半導体・液晶用特殊ガス類製造設備の成長投資やその他の維持投資ならびに海外子会社における製造設備の新設によるものであります。

(流動負債)

流動負債は202億54百万円で、前期末に比べ17億99百万円増加しました。その主な要因は、短期借入金が5億01百万円減少した一方で、支払手形及び買掛金が7億86百万円、流動負債のその他が13億73百万円増加したためであります。

(固定負債)

固定負債は172億46百万円で、前期末に比べ48億71百万円増加しました。その主な要因は、長期借入金が47億87百万円増加したためであります。これは主に、精密化学品事業部門のうち、半導体・液晶用特殊ガス類製造設備の成長投資やその他の維持投資ならびに海外子会社における製造設備の新設の目的によるものであります。受取手形割引高及び社債を含む有利子負債の残高は208億37百万円となり、前期末に比べ42億98百万円の増加となりました。

(純資産)

純資産合計は441億00百万円となり、前期末に比べ43億09百万円増加しました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金が12億05百万円減少した一方で、利益剰余金が当期純利益により58億56百万円増加したためであります。

経営成績の分析

当連結会計年度の売上高は552億00百万円となり、前期に比べ38億91百万円、7.6%の増加となりました。これは、設備事業部門が減収となった一方で、精密化学品事業部門のうち半導体・液晶用特殊ガス類が旺盛な需要により増収となったためであります。なお、事業別の売上の概要につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要業績」に記載のとおりであります。

売上原価は、原材料価格の上昇や減価償却費等の固定費の増加により30億62百万円増加しております。また、販売費及び一般管理費は輸送費等が増加しました。以上の結果、営業利益は94億47百万円となり、前期に比べ4億00百万円、4.4%の増加となりました。

営業外収益は前期にデリバティブ評価益を計上したこと等により12百万円減少しております。また、営業外費用は前期に為替差損を計上したことにより2億05百万円減少しております。以上の結果、経常利益は95億90百万円となり、前期に比べ5億93百万円、6.6%の増加となりました。

特別利益は投資有価証券売却益を計上したため66百万円増加しております。特別損失は固定資産除却損が増加したことにより27百万円増加しております。以上の結果、税金等調整前当期純利益は94億73百万円となりました。法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益を控除した親会社株主に帰属する当期純利益は65億52百万円となり、前期に比べ4億35百万円、7.1%の増加となりました。

資本の財源および資金の流動性

ア．キャッシュ・フローの分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの分析につきましては、「(1)経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

イ．資金需要

当社グループの主な資金需要は、設備投資、子会社株式の取得等の長期資金ならびに原材料の購入、製造費用、販売費及び一般管理費等の運転資金であります。

ウ．財務政策

長期資金については自己資金のほかに金融機関からの長期借入、短期資金については自己資金のほかに金融機関からの短期借入による調達を基本としております。また、運転資金の効率的な調達・安定性に配慮し、取引銀行との間でコミットメントライン契約を締結しております。

なお、当社グループは、事業活動に必要な資金を安定的に確保することを基本方針としており、財務状況や金融・経済情勢に応じて最適と判断した手段により資金を調達しております。

経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、平成28年度を初年度とする第10次中期経営計画(3ヵ年)および平成31年度を初年度とする第11次中期経営計画(3ヵ年)において、最終年度の連結経営指標について以下の数値目標を設定しております。

数値目標(最終年度の連結経営指標)

	第10次中期経営計画	第11次中期経営計画
売上高	550億円	700億円
営業利益	100億円	120億円
自己資本比率	-	50%以上
ROE	-	15%以上

第10次中期経営計画の最終年度にあたる当連結会計年度の売上高は552億00百万円、営業利益は94億47百万円となりました。この結果は、数値目標に対し、売上高は計画を達成したものの、当連結会計年度後半の半導体市場減速の影響により営業利益は計画を達成することができませんでした。なお、第11次中期経営計画の目標達成に向けた経営戦略と課題につきましては、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (2)中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題」に記載のとおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

5 【研究開発活動】

平成28年4月から平成31年3月までの第10次中期経営計画におきましては、「新規製品の早期創出」を重点目標に掲げて研究開発に取り組んだ結果、2品目の新規製品を上市いたしました。第11次中期経営計画におきましては、複数製品の上市を目標に研究開発を進めております。

研究開発体制に関しましては、精密化学品開発部を各事業と連動させ顧客密着型の開発を強化することにより、事業化を加速してきました。市場開発部は、自社技術を深耕した新製品の市場投入に向けて活動しております。開発企画部は、研究開発計画の立案から評価までを統括管理しております。研究・知的財産部は、事業戦略に沿った特許権利網の構築に取り組んでおります。これら4部門が、渋川開発研究所、水島開発研究所、及び基礎研究所の3研究所と連携して研究開発活動に取り組んでおります。

この第10次中期経営計画実行期間にあたる当連結会計年度の研究開発投資額は、1,211百万円でありました。

次に、研究開発テーマの概要及び今後の方向性を説明します。

「既存事業の強化」を目的に半導体・液晶製造用特殊ガス、電池材料、有機機能性材料、基礎化学品及び鉄系材料分野における新製品開発を推進するとともに、「新規事業の創出」を目的とした機能性フッ素系樹脂や有機無機ハイブリッド材料等の新規事業分野の開拓にも積極的に取り組んでいきます。

(1) 半導体・液晶製造用の特殊ガス

現在、半導体・液晶市場ではNF₃(三フッ化窒素)、CF₄(四フッ化炭素)、及びWF₆(六フッ化タングステン)等の各種フッ素系特殊ガスが、シリコン基板表面に回路パターンを刻むエッチング用途、及び製造装置内面のクリーニング用途に使用されています。当社は独自の技術によりこれらの特殊ガス製品を開発してまいりました。ムーアの法則に従って年々微細化が進む半導体分野においては、微細エッチング用のガスとして、C₄F₆(ヘキサフルオロ-1,3-ブタジエン)、COS(硫化カルボニル)やCH₃F(モノフルオロメタン)等を開発し、市場に提供してまいりました。さらに、近年の3D化や地球温暖化防止に対応する新規ガスや、配線用途及びパワー半導体用途の新規材料開発にも注力しております。また、世界有数の製造能力と品質とを合わせもつ半導体・液晶用特殊ガスメーカーである当社では、顧客に密着したタイムリーな開発を促進するため、平成29年に韓国に生産・開発拠点の設置を決定いたしました。

(2) 電池材料

リチウムイオン二次電池(LiB)業界では、今後の飛躍的な成長が期待される車載用等の大型電池分野をターゲットに更なる高容量化、長寿命化、難燃化等の研究が盛んに行われており、当社でもLiB用電解質LiPF₆(六フッ化リン酸リチウム)の開発に成功し、この分野に参入いたしました。また、LiPF₆に続く新製品として、LiBF₄(ホウフッ化リチウム)を平成29年4月より市場に投入いたしました。現在、高性能電解液用の各種添加剤を開発中であり、ラインナップ強化を図っていく計画です。さらに、次世代電池材料の探索も行なっており、電池材料事業の拡大を目指してまいります。

(3) 有機機能性材料

当社が得意とするフッ素化技術をはじめ様々な有機合成技術を活用した事業展開を目的として、平成25年に複数の受託テーマをひと括りとした「有機機能性材料事業」を立ち上げ、平成29年には1製品を追加いたしました。現在は、市況や顧客ニーズの変化に合わせ、将来の収益性を確保できるようポートフォリオの再構築を行なっております。

(4) 基礎化学品

基礎化学品事業の収益力強化を目的に、新規製品の開発に着手しております。環境規制対象となっている既存製品の代替を目指し、鋭意検討を進めております。

(5) 鉄系材料

当社では、導電性の鉄、フェライト、マグネタイト等のコア材表面に各種絶縁性樹脂をコーティングした現像剤用キャリアーを複写機、プリンター等画像形成装置市場に提供しております。さらに、このコーティング技術を活かした新規鉄系材料の開発、及びその用途開拓を推進することで鉄系事業の拡大を目指します。

(6) 新規材料研究

「新規事業の創出」に関しては、耐候性や防汚性に優れた撥水撥油性のフッ素系樹脂「エフクリア」(平成16年商標登録)を開発し、機能に応じて市場開発を進めております。ニッチ分野に加え、自動車向けトップコート等を中心に国内外への展開を図ることにより、採用件数は年々増えております。さらに、市場ニーズを先取りした高機能を備えた高付加価値品の開発や新規用途の開拓にも取り組んでおります。

また、鉄系事業で培ってきた微細化技術をベースに開発した無機ナノ材料、及び無機ナノ化合物と高分子化合物を複合化した有機 無機ハイブリッド材料の開発も進めており、多方面への用途展開を目指しております。

さらに、5～10年先の新規コア事業の創出を目的に、電子・情報通信分野、環境・エネルギー分野、及びライフサイエンス・ヘルスケア分野における当社の独自技術を活かした製品開発に長期的視点で取り組んでおります。

(7) 研究開発の効率化

研究開発テーマの進捗管理の見える化を推進するため、平成29年度にステージゲート制を導入しました。また、研究開発の効率化とスピードアップを図るため、平成30年度よりAIを活用したマテリアルズインフォマティクスの構築にも着手しております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ(当社及び連結子会社)では、当社の強みであるフッ素系製品の増強・合理化に重点をおき、当連結会計年度において全体で10,243百万円(連結消去後)の設備投資を実施いたしました。

セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 基礎化学品事業

当社における無機製品製造設備の増強、合理化を中心に977百万円の投資を行いました。

(2) 精密化学品事業

当社におけるフッ素系製品の増強、合理化及び韓国製造子会社の工場建設工事を中心に9,405百万円の投資を行いました。

(3) 鉄系事業

当社における鉄系製品製造設備の増強、合理化を中心に76百万円の投資を行いました。

(4) 商事事業

容器整備事業の機械装置などの増強を中心に34百万円の投資を行いました。

(5) 設備事業

化学工業用設備の製作用機械装置などの増強を中心に59百万円の投資を行いました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)	
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース 資産		合計
洪川工場 (群馬県渋川市)	精密化学品事業 鉄系事業	化学工業製品 生産設備及び 研究開発施設 設備	4,041	5,571	1,760	1,141 (193)	2	12,516	317
水島工場 (岡山県倉敷市)	基礎化学品事業 精密化学品事業	化学工業製品 生産設備及び 研究開発施設 設備	1,817	4,134	1,182	651 (189)	2	7,789	200
本社 (東京都千代田区)	基礎化学品事業 精密化学品事業 全社	その他設備	38	-	14	0 (0)	124	177	89
三重倉庫 (三重県三重郡 川越町)	精密化学品事業	物流倉庫	126	0	0	185 (8)	-	314	-

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース 資産	合計	
㈱上備製作所	高崎工場 (群馬県高崎市)	設備事業	化学工業、一般 産業用設備の製 造設備	27	46	4	98 (13)	-	176	70
	水島工場 (岡山県倉敷市)	設備事業	化学工業、一般 産業用設備の製 造設備	47	32	2	79 (6)	-	162	23
森下弁柄工業㈱	本社及び工場 (三重県伊賀市)	鉄系事業	化学工業製品生 産設備	39	43	4	103 (29)	2	193	41

(注) 1. 上記の金額には消費税等が含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	土地 (面積千㎡)	リース 資産	合計	
関東電化KOREA㈱	天安倉庫 (大韓民国忠清 南道天安市)	精密化学品事業	物流倉庫	230	9	16	291 (16)	-	547	8

(注) 1. 上記の金額には消費税等が含まれておりません。

2. 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完成予定 年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)				
提出会社	渋川工場 (群馬県渋川市)	精密化学品事業	フッ素系製品 製造設備	3,380	70	自己資金等	平成30年 8月	令和元年 12月	生産能力 の増強
関東電化 ファイン プロダクツ 韓国㈱	本社および工場 (大韓民国忠清 南道天安市)	精密化学品事業	フッ素系製品 製造設備	4,437	3,562	自己資金等	平成30年 4月	令和元年 10月	製造設備 の新設

(注) 上記の金額には消費税等が含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

特記すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成31年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (令和元年6月27日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	57,546,050	57,546,050	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準になる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	57,546,050	57,546,050		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
昭和55年12月6日(注)	2,900,000	57,546,050	145	2,877	1,450	1,524

(注) 有償・第三者割当 発行価格 550円
 資本組入額 50円

(5) 【所有者別状況】

平成31年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	44	51	120	139	11	5,700	6,065	-
所有株式数(単元)	-	228,541	10,573	120,832	128,178	222	86,990	575,336	12,450
所有株式数の割合(%)	-	39.72	1.84	21.00	22.28	0.04	15.12	100.00	-

(注) 自己株式22,531株は、「個人その他」に225単元、「単元未満株式の状況」に31株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

平成31年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	4,130	7.18
朝日生命保険相互会社 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町二丁目6番1号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	3,570	6.21
日本ゼオン株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目6番2号	3,550	6.17
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	2,554	4.44
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカUNT ジェイピーアールデイ アイエスジー エフイー - エイシー (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	PETERBOROUGH COURT 133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB UNITED KINGDOM (東京都千代田区丸の内二丁目7番1号)	1,960	3.41
株式会社群馬銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	群馬県前橋市元総社町194番地 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	1,600	2.78
株式会社中国銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	岡山県岡山市北区丸の内一丁目15番20号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	1,400	2.43
株式会社みずほ銀行 (常任代理人 資産管理サービス信託銀行株式会社)	東京都千代田区大手町一丁目5番5号 (東京都中央区晴海一丁目8番12号)	1,202	2.09
株式会社A D E K A	東京都荒川区東尾久七丁目2番35号	1,148	2.00
ゴールドマンサックスインターナショナル (常任代理人 ゴールドマンサックス証券株式会社)	133 FLEET STREET LONDON EC4A 2BB U.K. (東京都港区六本木六丁目10番1号)	964	1.68
計		22,080	38.38

(注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)および日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数はすべて信託業務に係るものであります。

2. 平成30年4月20日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、株式会社みずほ銀行並びにその共同保有者であるみずほ証券株式会社及びアセットマネジメントOne株式会社が同年4月13日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されております。

当該大量保有報告書(変更報告書)の共同保有者のうち、みずほ証券株式会社及びアセットマネジメントOne株式会社につきましては、当社として平成31年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	株券等 保有割合 (%)
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	1,202,000	2.09
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町一丁目5番1号	75,600	0.13
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号	2,340,800	4.07

3. 平成30年6月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー及びその共同保有者であるウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッドが同年5月31日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成31年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	株券等 保有割合 (%)
ウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー	アメリカ合衆国、02210 マサチューセッツ州ボストン、コングレス・ストリート280	1,630,450	2.83
ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド	東京都千代田区丸の内一丁目1番1号	1,300,162	2.26

4. 平成30年12月19日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書において、エフィッシモ キャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディーが同年12月14日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成31年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	株券等 保有割合 (%)
エフィッシモ キャピタル マネージメント ピーティーイー エルティーディー	260 オーチャードロード #12-06 ザヒールン シンガポール 238855	2,905,300	5.05

5. 平成30年12月24日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、三菱UFJ信託銀行株式会社並びにその共同保有者である三菱UFJ国際投信株式会社及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社が平成31年1月4日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成31年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	株券等 保有割合 (%)
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	1,957,500	3.40
三菱UFJ国際投信株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目12番1号	219,900	0.38
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	東京都千代田区丸の内二丁目5番2号	116,200	0.20

6. 平成31年3月22日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、ブラックロック・ジャパン株式会社並びにその共同保有者であるブラックロック(ルクセンブルグ)エス・エー、ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド、ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ、ブラックロック・インターナショナル・リミテッド及びブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ・エイ、が同年3月15日現在でそれぞれ以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として平成31年3月31日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	株券等 保有割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号	795,800	1.38
ブラックロック(ルクセンブルグ)エス・エー	ルクセンブルク大公国 L-1855 J.F.ケネディ通り 35A	609,700	1.06
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド	アイルランド共和国 ダブリン ボールスブリッジ ボールスブリッジパーク 2	57,900	0.10
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	268,500	0.47
ブラックロック・インターナショナル・リミテッド	英国 エディンバラ センプル・ストリート 1 エクスチェンジ・プレース・ワン	158,500	0.28
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ・エイ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	276,650	0.48

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成31年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 22,500		
完全議決権株式(その他)	普通株式 57,511,100	575,111	
単元未満株式	普通株式 12,450		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	57,546,050		
総株主の議決権		575,111	

(注) 単元未満株式には当社所有の自己株式31株が含まれております。

【自己株式等】

平成31年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) 関東電化工業株式会社	東京都千代田区 神田淡路町二丁目105番地	22,500	-	22,500	0.04
計		22,500	-	22,500	0.04

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他()	-	-	-	-
保有自己株式数	22,531	-	22,531	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、令和元年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

剰余金の配当等の決定につきましては、株主の皆様への適正な利益還元を第一義と考え、業績の推移も勘案しながら、中長期的な事業計画に基づき、収益の向上に不可欠な設備投資資金の確保と財務体質の強化を図りつつ、安定した配当を継続することを基本方針としております。

当事業年度の期末配当につきましては、平成31年3月期の業績および経営環境などを総合的に勘案した結果、令和元年5月28日開催の取締役会にて、1株につき7円とさせていただきます。すでにお支払いしております中間配当6円を加えた1株当たりの年間配当金は13円となります。なお、期末配当金の支払開始日は令和元年6月28日(金)となります。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成30年11月14日 取締役会決議	345	6
令和元年5月28日 取締役会決議	402	7

(注) 当社は、「当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の定めによらず取締役会の決議により定める。」旨定款に定めております。

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、経営理念として、「会社の永遠の発展を追求し、適正な利益を確保することにより、株主、ユーザー、従業員と共に繁栄する企業を目指して豊かな社会づくりに貢献する。これを実現するために、当社独自の技術と心のこもったサービスでユーザーの期待に応え、誠意・創造性・迅速な対応・自然との調和をモットーに信頼される関東電化を築き上げる。」ことを掲げております。つまり、当社は、「企業価値を高めるとともに豊かな社会づくりに貢献する」ことを企業目標にしており、この実現のために、株主、地域社会、ユーザー、従業員等のステークホルダーの皆様と良好な関係を築くことに取り組んでおります。

したがいまして、当社は、東京証券取引所が定めるコーポレートガバナンス・コードの趣旨に賛同するものであり、コーポレートガバナンスの充実に努めてまいりたいと考えております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

）企業統治体制の概要

当社は、監査役設置会社であります。取締役会が、重要な業務執行の決定を行うとともに取締役の職務の執行を監督しており、監査役ならびに監査役会が、取締役の職務の執行を監査しております。また、取締役の指名、報酬等に係る取締役会の機能の客観性・透明性を強化することを目的として、独立社外取締役を含む委員で構成される「役員人事案策定会議」を取締役会の諮問機関として設置し、取締役候補者の指名や報酬決定に関する助言を受けるため、必要に応じて適宜開催することとしております。

当社は、定例の取締役会を毎月1回開催しておりますが、取締役会の機能をより強化し経営効率を向上させるため、当社業務を執行する取締役・執行役員が出席する経営会議を毎月1回開催し、業務執行に関する基本的事項および重要事項に係る意思決定を機動的に行います。また、変化の激しい経営環境に機敏に対応するため、取締役の任期を1年としております。あわせて、業務の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、取締役会のチェック機能を強化するため、執行役員制を採用しております。

監査役会は、監査に関する重要事項について報告・協議・決議を行っております。また、常勤監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するため、コンプライアンス・リスク管理委員会や経営会議などの重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を一覧し、必要に応じて取締役または使用人にその説明を求めることとしております。

機関ごとの構成員は以下のとおりであります。（ は議長、委員長を表す。）

役職名	氏名	取締役会	監査役会	経営会議	役員人事案策定会議
代表取締役会長	山下史朗			○	○
代表取締役社長	長谷川淳一	○			
取締役常務執行役員	高池幸雄	○		○	○
取締役常務執行役員	石井冬彦	○		○	
取締役執行役員	矢島武明	○		○	
取締役執行役員	山口安成	○		○	
社外取締役	松井秀樹	○			○
社外取締役	杉山正治	○			○
社外取締役	羽深 等	○			○
常勤監査役	鈴木 洸	○		○	
常勤監査役	浦本邦彦	○	○	○	
社外監査役	古河直純	○	○		
社外監査役	木村博紀	○	○		
上席執行役員	林 政友			○	
執行役員	小関康司			○	
執行役員	阿部友紀			○	
執行役員	大矢浩三			○	
執行役員	増島亮司			○	

）当該体制を採用する理由

当社は、監査役設置会社として、取締役相互の職務の執行の監督ならびに監査役の監査が機能すると考えております。また、独立性のある社外取締役および社外監査役によって、取締役の職務の執行についての監査だけでなく、客観的・第三者的立場から経営のチェックが行われていると考えております。

企業統治に関するその他の事項

) 内部統制システムの基本方針

業務の適正を確保するための体制の整備についての決議（内部統制システムの基本方針）については、以下のとおりであります。

(ア)業務運営の基本方針

当社では、以下の経営理念を経営の拠り所とします。

〔経営理念〕

会社の永遠の発展を追求し、適正な利益を確保することにより、株主、ユーザー、従業員と共に繁栄する企業を目指して豊かな社会づくりに貢献する。

これを実現するために、当社独自の技術と心のもったサービスでユーザーの期待に応え、誠意・創造性・迅速な対応・自然との調和をモットーに信頼される関東電化を築き上げる。

また、当社では、上記の経営理念を具体的な行動に落とし込んだ以下の「行動指針」を日ごろの業務運営の指針とします。

〔行動指針〕

- ・お客様第一を常に考え、礼儀正しく、情熱をもって行動しよう
- ・法令、社内規程を遵守し、公明正大に行動しよう
- ・5S・PDCAを実行し、安全で働きやすい職場環境をつくりあげよう
- ・自己の研鑽と後進の育成に努め、仕事のプロフェッショナルを目指そう
- ・創造的な技術でお客様が安心して使用できる製品を創り出そう
- ・豊かな社会づくりのため、環境の保全・調和に努めよう

(イ)取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社は、コンプライアンス全体を統括する組織として、社長を委員長とし、社外弁護士も参加する「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設置します。また、化学メーカーとして重要な課題である「安全・環境」関係の法令等については、それを専管する組織として、社長を議長とする「RC推進会議」を設置します。

コンプライアンスの推進については、「関東電化工業グループ コンプライアンス・マニュアル」を制定し、役員および社員等が、それぞれの立場でコンプライアンスを自らの問題としてとらえ業務運営にあたるよう、研修等を通じ、指導します。

当社は、相談・通報体制を設け、役員および社員等が、社内においてコンプライアンス違反行為が行われ、または行われようとしていることに気がついたときは、法務・総務部長、常勤監査役または社外弁護士等に通報(匿名も可)しなければならないと定めます。会社は、通報内容を秘守し、通報者に対して、不利益な扱いを行いません。取引先等外部からコンプライアンスについての通報を受けた場合の連絡体制も整備します。

当社は、反社会的勢力に対しては毅然とした態度で臨み、同勢力からの不当要求を断固として拒絶していきます。

当社は、社長直属の内部監査室を設け、業務全般の内部監査を行っていきます。

(ウ)損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、安全・環境リスクを専管する組織として、社長が議長である「RC推進会議」を設けます。下部組織として、「安全環境保安委員会」「品質管理委員会」「物流安全委員会」を設け、担当部門が専門的な立場から、安全・衛生面、環境面、製品安全面、物流面での監査を行います。また、各工場において、労働安全衛生マネジメントシステムの認証を受け、労働安全に取り組んでいきます。

当社は、リスク管理全体を統括する組織として「コンプライアンス・リスク管理委員会」を設け、有事においては、社長を本部長とする「緊急対策本部」が統括して危機管理にあたります。

なお、当社は、平時においては、各部門において、その有するリスクの洗い出しを行い、そのリスクの軽減等に取り組むとともに、有事においては、「有事対応マニュアル」に従い、会社全体として対応します。

(工)財務報告の適正性を確保するための体制

当社は、財務報告に係る内部統制について、取締役会が定める財務報告の基本方針に基づき、各部門において関係する規程や業務文書等を整備するとともに、内部監査室が独立の立場からその評価を行っていきます。

(オ)取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、定例の取締役会を毎月1回開催し、重要事項の決定ならびに取締役の業務執行状況の監督等を行います。取締役会の機能をより強化し経営効率を向上させるため、当社業務を執行する取締役・執行役員が出席する経営会議を毎月1回開催し、業務執行に関する基本的事項および重要事項に係る意思決定を機動的に行います。また、取締役等をメンバーとする業務推進会議を設け、絞り込んだテーマについて、時間をかけて議論を行います。

業務の運営については、将来の事業環境を踏まえ中期経営計画および各年度予算を立案し、全社的な目標を設定します。各部門においては、その目標達成に向け具体策を立案・実行します。

なお、変化の激しい経営環境に機敏に対応するため、取締役の任期を1年とします。あわせて、業務の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離し、取締役会のチェック機能を強化するため、執行役員制を採用します。

(カ)取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

当社は、法令・社内規程に基づき、文書等の保存を行います。

また、情報の管理については、情報セキュリティに関するガイドライン、個人情報保護に関する基本方針を定めて対応します。

(キ)当社企業グループにおける業務の適正を確保するための体制

当社は、コンプライアンスをはじめとする内部統制方針等を当社企業グループにおいて共有化します。また、当社は、当社企業グループ各社にコンプライアンス推進担当者を置くとともに、コンプライアンス・リスク管理委員会がグループ全体のコンプライアンスを統括・推進する体制とします。あわせて、グループ共通の「関東電化工業グループコンプライアンス・マニュアル」を策定するとともに、相談・通報体制の範囲をグループ全体とします。

関連会社の経営については、関係会社管理規程に基づき、その自主性を尊重しつつ、事業内容の定期的な報告と重要案件についての事前協議を行います。また、当社は、当社企業グループ各社に対して役員を派遣し、グループ各社の業務運営状況や内部統制状況等を確認します。

(ク)監査役の職務を補助すべき使用人およびその使用人の取締役からの独立性に関する事項

現在、監査役の職務を補助すべき使用人はいませんが、必要に応じて、監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その人事については、取締役と監査役が意見交換を行います。

(ケ)監査役への報告体制およびその他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、会長、社長とそれぞれ定期的な会合を持ち、意見交換を行います。また、監査役は、内部監査室等の内部監査部門および当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行うなど連携を図っていきます。

当社および当社企業グループ各社の役員および社員等は、会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実があることを発見したときは、法令に従い、直ちに監査役に報告します。また、当社および当社企業グループ各社は、その報告を行った者に対して不利益な取扱いを行いません。

常勤監査役は、取締役会の他、重要な意思決定の過程および業務の執行状況を把握するため、コンプライアンス・リスク管理委員会や経営会議などの重要な会議に出席するとともに、主要な稟議書その他業務執行に関する重要な文書を閲覧し、必要に応じて取締役または使用人にその説明を求めることとします。

当社は、監査役がその職務の執行について必要な費用の前払いまたは償還等の請求をしたときは、速やかに当該費用または債務を処理します。

）内部統制システムの運用状況(概要)

当社の内部統制は、内部統制システムの基本方針に従い、以下のとおり運用されています。

経営理念を経営の拠り所、行動指針を日ごろの業務運営の指針としておりますが、教育も適宜実施しています。

コンプライアンスについては、「コンプライアンス・リスク管理委員会」「RC推進会議」を定期的開催し、内部通報の状況を含めてその内容を取締役に報告しています。

損失の危険の管理については、「RC推進会議」が中心となって、安全・環境のリスク管理を行っています。その他のリスクも含めて、リスク全体を「コンプライアンス・リスク管理委員会」が統括しています。

財務報告の適正性については、会計監査人と適切に連携しながら、内部監査室が独立の立場から評価を行っており、その結果を取締役に報告しています。

取締役の職務の執行の効率性については、執行役員制を導入するとともに、取締役会、経営会議等各種会議の目的・役割・参加メンバーを適切に設定し、効率的な業務運営を行っています。また、予算に基づき業績をトレースしています。

情報の保存管理については、社内規程に基づき、適切に対応しております。

当社企業グループ各社の経営については、業務内容を定期的に報告させるとともに、取締役会に当社役員等を派遣し業務運営の適正性を確認しております。また、監査役、内部監査室が監査等を行っています。

監査役を補助すべき使用人については、専任者はおりませんが、関係部門が連携して監査役の職務を補助しております。

監査役は、内部監査室や会計監査人と情報を共有するとともに、会長、社長とそれぞれ適宜意見交換しております。

）責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役ならびに当社と社外監査役との間では、会社法第427条第1項に基づき、同法第423条第1項に定める責任について、会社法第425条第1項各号に定める金額の合計額を限度とする契約を締結しております。

）取締役の定数

当社は、「当会社の取締役は、12名以内とする。」旨定款に定めております。

）取締役の選任および解任の決議要件

当社は、「取締役の選任決議および解任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う。」旨定款に定めております。

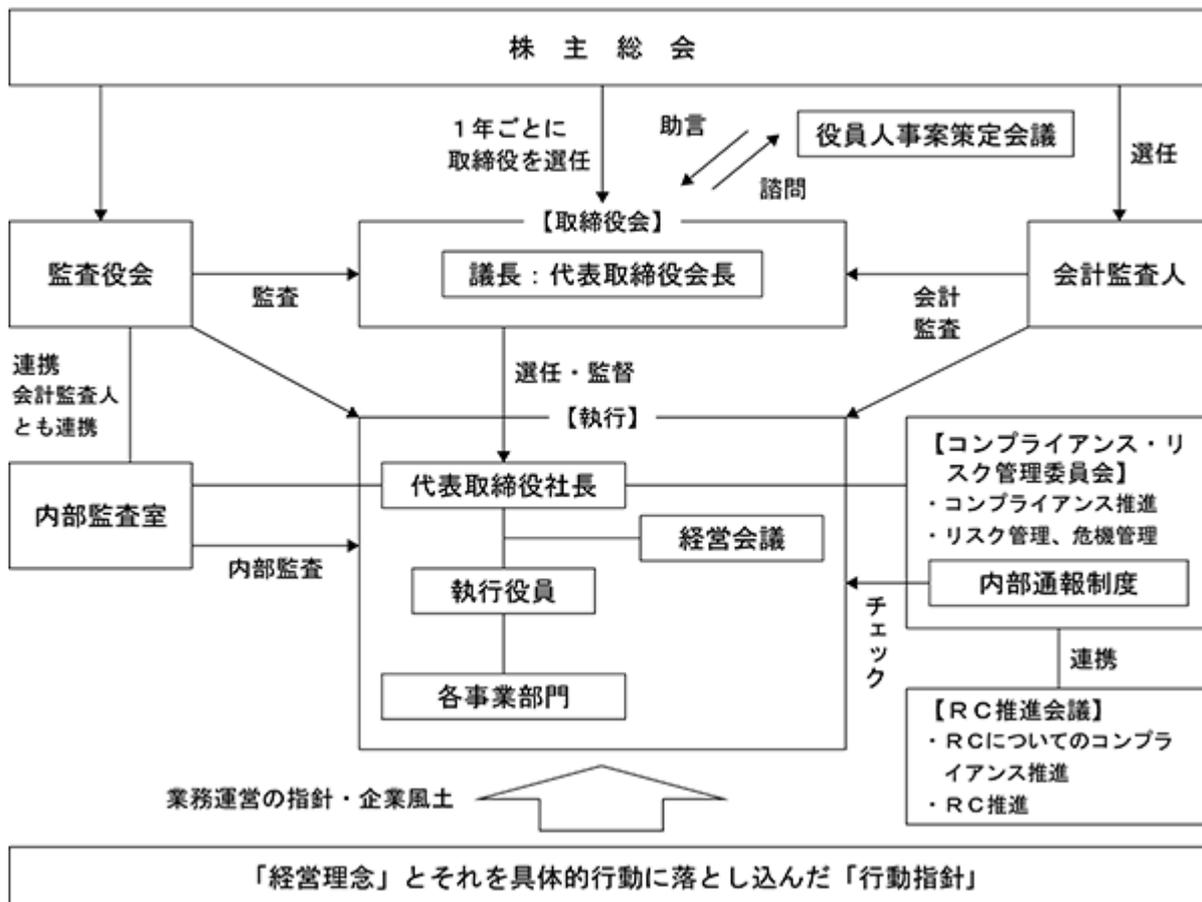
）剰余金の配当等の決定機関

当社は、配当政策の選択肢を確保するため、「当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める。」旨定款に定めております。

）株主総会の特別決議

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別要件を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

【内部統制 模式図】



(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 13名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 -%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役会長	山下 史朗	昭和22年8月18日生	昭和45年4月 当社入社 平成12年7月 当社水島研究所長 平成14年4月 当社新製品開発本部新製品開発推進部長 平成15年6月 当社取締役新製品開発本部新製品開発推進部長 平成17年6月 当社取締役営業本部副本部長兼精密化学品第3部長 平成18年6月 当社取締役執行役員営業本部副本部長兼精密化学品第3部長 平成19年6月 当社取締役執行役員経営企画部長 平成21年6月 当社取締役常務執行役員 平成23年6月 当社代表取締役社長 平成24年4月 当社代表取締役社長兼新製品開発本部長 平成26年4月 当社代表取締役社長 平成27年6月 当社代表取締役会長(現任)	(注)2	54
代表取締役社長 兼事業本部長 (内部監査室、 統括業務部担当)	長谷川 淳一	昭和33年11月11日生	平成12年1月 当社入社 平成16年7月 当社営業本部精密化学品第2部長 平成19年6月 当社執行役員営業本部精密化学品第2部長 平成21年6月 当社取締役執行役員営業本部長 平成23年1月 当社取締役執行役員営業本部長兼精密化学品第1部長 平成23年6月 当社取締役執行役員、科地克(上海)貿易有限公司董事長兼總經理 平成27年6月 当社代表取締役社長 令和元年6月 当社代表取締役社長兼事業本部長(現任)	(注)2	30
取締役常務執行役員 (法務・総務部、人事部、 経理財務部、情報システム部 担当)	高池 幸雄	昭和28年11月23日生	昭和52年4月 朝日生命保険相互会社入社 平成13年4月 同社資産運用企画部長 平成14年10月 同社資産運用統括部門資産運用企画担当副統括部門長 平成20年6月 同社執行役員資産運用統括部門資産運用企画担当副統括部門長 平成20年7月 同社執行役員資産運用統括部門長 平成22年4月 同社執行役員事務・システム統括部門契約事務専管部門長 平成24年4月 同社総務人事統括部門顧問 平成24年6月 当社取締役執行役員 平成26年6月 当社取締役執行役員情報システム部長 平成27年6月 当社取締役常務執行役員(現任)	(注)2	17

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役常務執行役員 技術本部長兼 新製品開発本部長 (資材部担当)	石井 冬彦	昭和33年12月10日生	昭和56年4月 当社入社 平成14年4月 当社渋川研究所長 平成17年6月 当社新製品開発本部新製品開発推進部長 平成19年6月 当社執行役員、関東電化KOREA株式会社代表理事 平成21年6月 当社執行役員営業本部精密化学品第2部長 平成24年4月 当社執行役員新製品開発本部研究統括部長 平成26年4月 当社執行役員新製品開発本部開発営業部長 平成27年6月 当社執行役員、科地克(上海)貿易有限公司董事長兼總經理 平成29年4月 当社執行役員、科地克(上海)貿易有限公司董事長 平成29年6月 当社取締役執行役員技術本部長 令和元年6月 当社取締役常務執行役員技術本部長兼新製品開発本部長(現任)	(注)2	7
取締役執行役員 (経営企画部、 海外事業推進部担当)	矢島 武明	昭和38年4月20日生	昭和62年4月 株式会社第一勧業銀行(現株式会社みずほ銀行)入行 平成15年3月 株式会社みずほ銀行鳥取支店長 平成17年5月 同行コンサルティング業務部次長 平成20年4月 同行支店部次長 平成22年4月 同行支店部第八ユニット部長 平成24年4月 同行立川支店長 平成26年4月 同行営業店業務第二部長 平成27年4月 同行東京営業部東京営業第一部長 平成30年6月 当社顧問 平成30年6月 当社取締役執行役員(現任)	(注)2	1
取締役執行役員 渋川工場長	山口 安成	昭和40年8月1日生	平成2年4月 当社入社 平成21年4月 当社渋川工場第1製造部長 平成25年6月 当社経営企画部長 平成27年6月 当社執行役員水島工場長 令和元年6月 当社取締役執行役員渋川工場長(現任)	(注)2	2
取締役	松井 秀樹	昭和37年7月9日生	昭和62年4月 弁護士登録 昭和62年4月 丸の内総合法律事務所入所 平成18年10月 株式会社カネボウ化粧品社外監査役 平成23年9月 丸の内総合法律事務所共同代表弁護士(現任) 平成27年6月 当社社外取締役(現任)	(注)2	-
取締役	杉山 正治	昭和29年6月20日生	昭和54年11月 監査法人第一監査事務所(現EY新日本有限責任監査法人)入所 昭和58年8月 公認会計士登録 平成14年5月 同監査法人代表社員(現シニアパートナー) 平成20年8月 同監査法人社員評議会評議委員 平成22年8月 同監査法人監査委員 平成25年8月 同監査法人監査委員長 平成26年8月 同監査法人社員評議会副議長 平成28年6月 当社社外取締役(現任)	(注)2	-

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	羽深 等	昭和32年3月25日生	昭和56年4月 平成12年3月 平成12年4月 平成14年4月 平成29年4月 令和元年6月	信越化学工業株式会社入社 同社退社 横浜国立大学(現国立大学法人横浜国立大学)工学部物質工学科助教授 同大学大学院工学研究院 機能の創生部門 教授(現任) 同大学理工学部副学部長(現任) 当社社外取締役(現任)	(注)2	-
常勤監査役	鈴木 洸	昭和27年12月2日生	昭和51年4月 平成14年10月 平成17年7月 平成18年6月 平成19年6月 平成20年10月 平成21年4月 平成21年6月 平成23年6月 平成25年6月 平成26年4月 平成27年6月 令和元年6月	当社入社 当社渋川工場第2製造部長 当社技術本部生産品質管理部長 当社渋川工場次長兼第3製造部長 当社執行役員渋川工場次長兼第3製造部長 当社執行役員渋川工場次長兼第3製造部長兼生産技術部長 当社執行役員渋川工場次長 当社執行役員渋川工場長 当社取締役執行役員渋川工場長 当社取締役常務執行役員技術本部長 当社取締役常務執行役員技術本部長兼新製品開発本部長 当社顧問、関電興産株式会社代表取締役社長 当社常勤監査役(現任)	(注)3	24
常勤監査役	浦本 邦彦	昭和34年8月24日生	昭和57年4月 平成14年12月 平成20年4月 平成23年6月 平成29年6月 平成30年6月	朝日生命保険相互会社入社 当社入社 当社人事総務部長 当社執行役員人事総務部長 当社上席執行役員法務・総務部長 当社常勤監査役(現任)	(注)3	9
監査役	古河 直純	昭和19年12月22日生	昭和42年4月 平成9年6月 平成11年6月 平成13年6月 平成14年6月 平成15年6月 平成18年6月 平成25年6月 平成26年3月 平成27年6月	日本ゼオン株式会社入社 同社取締役 同社常務取締役 同社専務取締役 同社代表取締役専務 同社代表取締役社長 横浜ゴム株式会社社外監査役 日本ゼオン株式会社代表取締役会長(現任) 横浜ゴム株式会社社外取締役(現任) 当社社外監査役(現任)	(注)3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
監査役	木村 博紀	昭和37年1月19日生	昭和59年4月 朝日生命保険相互会社入社 平成21年4月 同社資産運用統括部門資産運用企画ユニットゼネラルマネージャー 平成24年4月 同社執行役員資産運用統括部門財務・不動産専管部門長 平成25年4月 同社執行役員資産運用統括部門長 平成25年7月 同社取締役執行役員資産運用統括部門長 平成26年4月 同社取締役執行役員資産運用部門長 平成26年6月 当社社外監査役(現任) 平成27年4月 朝日生命保険相互会社取締役常務執行役員 平成28年6月 日本ビストンリング株式会社社外監査役(現任) 平成29年4月 朝日生命保険相互会社代表取締役社長(現任) 平成31年3月 横浜ゴム株式会社社外監査役(現任)	(注)3	-
計					146

(注) 1. 取締役松井秀樹氏、杉山正治氏および羽深等氏は社外取締役、監査役古河直純氏および木村博紀氏は、社外監査役であります。

(注) 2. 任期は、令和元年6月27日から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

(注) 3. 任期は、平成28年6月29日から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。

(注) 4. 当社は、監査役の員数を欠いた場合においても監査業務の継続性を維持するため、補欠の社外監査役として川俣尚高氏を選任しております。川俣尚高氏の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
川俣 尚高	昭和40年5月1日生	平成6年4月 弁護士登録 平成6年4月 丸の内総合法律事務所入所(現任) 平成27年4月 最高裁判所司法研修所民事弁護教官 平成28年6月 トレックス・セミコンダクター株式会社社外取締役(監査等委員)(現任) 平成29年6月 日本製粉株式会社社外取締役(現任)	-

社外役員の状況

当社は、社外取締役3名、社外監査役2名選任しております。

当社は、社外役員を選任する際の独立性の基準等は設けてはおりませんが、金融商品取引所が定める独立性の基準等を参考にして、それぞれ社外役員を選任しております。

社外取締役松井秀樹氏は、弁護士として企業法務に長く携わっており、その経験と幅広い識見を当社の経営に活かしていただけることから、社外取締役として選任しております。また、同氏は、当社が法律顧問契約を締結している「丸の内総合法律事務所」に所属しており、当社は同事務所に対し、弁護士報酬の支払いをしておりますが、その額は平成31年3月期で2百万程度であり、当社および同事務所のいずれにとっても同氏の独立性に影響を与えるものではないことから、同氏を独立役員に指定しております。

社外取締役杉山正治氏は、公認会計士として企業会計に長く携わっており、その経験と幅広い識見を当社の経営に活かしていただけることから、社外取締役として選任しております。また、同氏は、当社の会計監査人である「EY新日本有限責任監査法人」に所属しておりましたが、平成28年6月27日に同監査法人を退社しております。当社は同監査法人に対し、監査報酬等の支払いをしておりますが、その額は平成31年3月期で37百万円程度であり、当社および同監査法人のいずれにとっても同氏の独立性に影響を与えるものではないことから、同氏を独立役員に指定しております。なお、同氏は当社の監査を担当したことはありません。

社外取締役の羽深等氏は化学メーカーでの勤務経験ならびに他社における技術顧問や客員研究員等の経験があります。また、研究開発に長く携わっており、その経験と幅広い識見を当社の経営に活かしていただけることから、社外取締役として選任しております。また、同氏は、当社が共同研究契約を締結している「国立大学法人横浜国立大学」に所属しており、当社は同大学に対し、寄附金の支払いをしておりますが、その額は平成31年3月期で1百万円であり、当社および同大学のいずれにとっても同氏の独立性に影響を与えるものではないことから、同氏を独立役員に指定しております。

社外監査役古河直純氏は、長年、化学メーカーの経営に携わり、経験に裏打ちされたアドバイスを独立の立場からいただけることから、社外監査役として選任しております。また、同氏は、当社の株主(出資比率6.17%)である日本ゼオン株式会社の代表取締役会長ではありますが、主要株主ではないことから、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、同氏を独立役員に指定しております。

社外監査役木村博紀氏は、金融に対する幅広い知識を有しており、大所高所からアドバイスを独立の立場からいただけることから、社外監査役として選任しております。また、同氏は、当社の株主(出資比率6.21%。また当社は、朝日生命保険相互会社より融資を受けております。当該融資については、市場金利等を勘案して合理的に決定しております。)である朝日生命保険相互会社の代表取締役社長ではありますが、主要株主ではないことから、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、同氏を独立役員に指定しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役及び会計監査人との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役、社外監査役および常勤監査役は、情報連絡会を適宜開催し、相互に連携を図っております。また、社外監査役は、監査役会を通して、内部監査室等の内部監査部門および当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人と連携を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役会は、常勤監査役2名と非常勤(社外)監査役2名の4名で構成し、定期的に監査に関する重要な事項についての報告あるいは協議を行っております。監査の実効性確保の面から、監査役は取締役会に、また、常勤監査役は経営会議をはじめその他の重要な会議にも出席し、取締役の職務の執行を監査する体制を確保しております。

また、監査役は、内部監査室等の内部監査部門および当社の会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人から会計監査内容について説明を受けるとともに、情報の交換を行うなど連携を図っております。

なお、浦本邦彦氏は当社人事、法務・総務部門(IRを含む)における長年の経験があり、財務、会計、法務に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査の状況

当社は、社長直属の内部監査室(2名で運営)を設け、業務全般の内部監査を行っております。また、当社は、財務報告に係る内部統制について、取締役会が定める財務報告の基本方針に基づき、各部門において関係する規程や業務文書等を整備するとともに、内部監査室が独立の立場からその評価を行ってまいります。

また、化学メーカーとして重要な課題である「安全・環境」関係を専管する組織として「RC推進会議」を設置し安全・衛生面、環境面、製品安全面、物流面での監査を行っております。この他、経理財務部等各部門がそれぞれ所管する内部監査機能を果たしております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

EY新日本有限責任監査法人

(注)新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となりました。

b. 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 米村 仁志

指定有限責任社員 業務執行社員 公認会計士 本多 茂幸

c. 監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務に係る補助者は、公認会計士8名、会計士試験合格者6名、その他9名であります。

d. 監査法人の選定方針と理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき制定した「会計監査人の選定基準」に従い、会計監査人候補者から、監査法人の概要、監査の実務体制等、監査報酬の見積額について書面を入手し、面談、質問等を通じて、会計監査人を選定することとしております。

なお、現監査法人は、「監査役及び監査役会による監査法人の評価」に記載のとおり、「会計監査人の評価基準」に従って再任を継続して現在に至っております。

e. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」に基づき制定した「会計監査人の評価基準」に準拠して、当社の経理財務部門及び内部監査部門並びに会計監査人から、会計監査人の独立性・監査体制・監査の実施状況や品質等に関する情報を収集し、監査体制、監査計画、監査活動は適切・妥当であるか、監査報酬は妥当であるかなど複数の項目について、総合的、多角的に評価を行っております。

監査報酬の内容等

「企業内容等の開示に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」(平成31年1月31日内閣府令第3号)による改正後の「企業内容等の開示に関する内閣府令」第二号様式記載上の注意(56)d(f)からの規定による経過措置を適用している。

a. 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	36	0	37	0
連結子会社	-	-	-	-
計	36	0	37	0

当社における非監査業務の内容は、前連結会計年度と当連結会計年度ともに再生可能エネルギー固定価格買取制度の減免申請に関する確認業務であります。

b. その他重要な報酬の内容

(前連結会計年度)

当社の連結子会社である台湾関東電化股份有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst&Youngのメンバーファームに対して、監査証明業務および非監査証明業務に基づく報酬等を支払っており、その金額は、合計で3百万円であります。

(当連結会計年度)

当社の連結子会社である台湾関東電化股份有限公司は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているErnst&Youngのメンバーファームに対して、監査証明業務および非監査証明業務に基づく報酬等を支払っており、その金額は、合計で3百万円であります。

c. 監査報酬の決定方針

該当事項はありません。

d. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、監査内容、監査時間および監査報酬の推移ならびに過年度の監査計画と実績の状況を確認し、当事業年度の監査時間および報酬額の見積りの妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

取締役の報酬は、固定報酬と業績連動報酬で構成されており、固定報酬は役位別に定めた一定額を各取締役に支給し、業績連動報酬は前年度の経常利益の一定割合を賞与として支給しています。また、中長期的観点から、各取締役は役員持株会を利用して一定の自社株を購入することとしています。

取締役報酬の決定方法は、独立社外取締役を含む委員で構成される「役員人事案策定会議」に報酬案を諮問したうえで、取締役会にて決定しています。

当社の役員の報酬等に関する株主総会の決議年月日は平成19年6月28日であり、決議の内容は以下のとおりです。

〔取締役(社外取締役を除く)〕

(ア)第100回定時株主総会終結の時をもって退職慰労金制度を廃止する。

(イ)退職慰労金相当額は、月額報酬および取締役賞与に組み入れる。

(ウ)取締役賞与は、業績連動型とする。

(エ)役員持株会を通じた当社株式の購入ガイドラインを設ける。

〔監査役および社外取締役〕

(ア)第100回定時株主総会終結の時をもって退職慰労金制度を廃止する。

(イ)独立性の担保という観点から、月額報酬のみとする。また、退職慰労金相当額は、月額報酬に組み入れる。

以上の考え方にに基づき、取締役および監査役の報酬等の額につき、以下のとおりとする。

〔取締役〕

(ア)取締役の月額報酬は2,400万円以内とし、役位別に定めた一定金額を各取締役に支給する。

(イ)(ア)の月額報酬とは別に、8,000万円を上限として、当該事業年度の当社経常利益の0.8%(百万円未満切捨て)を取締役賞与として支給する。ただし、当該事業年度の当社経常利益が10億円未満の場合は、取締役賞与は支給しない。

(ウ)取締役賞与の支給対象者は、業務を執行する取締役全員とする。ただし、業務を執行する期間が当該事業年度の2分の1に達しない取締役を除く。

(注)1 取締役賞与の各取締役への配分方法は、取締役会にて以下のとおり決定しています。

$$(イ)の取締役賞与の総額 \times \frac{\text{以下に定める役位のポイント}}{\text{支給対象者全員の役位ポイントの合計}}$$

役位ポイントは、取締役会長2.0、取締役社長2.0、取締役副社長執行役員1.5、取締役専務執行役員1.3、取締役常務執行役員1.0、取締役執行役員0.1とする。ただし、当該事業年度中に取締役として在籍しない期間がある場合は、在籍月数(1月未満は1月とする。)を12で除した数値を役位ポイントに乗じたものとする。また、当該事業年度中に役位の変更があった場合は、月数按分する。

(注)2 取締役の報酬等の額には、従来どおり使用人兼務役員の使用人報酬は含まない。

〔監査役〕

監査役の月額報酬は500万円以内とする。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の額	報酬等の種類別の総額		対象となる 役員の員数
		固定報酬	業績連動報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	275百万円	203百万円	71百万円	8名
監査役 (社外監査役を除く)	38百万円	38百万円	- 百万円	3名
社外役員	16百万円	16百万円	- 百万円	4名

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、使用人兼取締役の使用人分給与は含まれておりません。
 2. 取締役賞与は、第100回定時株主総会にて決議した所定の算式(8,000万円を上限として、当事業年度の当社経常利益の0.8%とする。ただし、当事業年度の当社経常利益が10億円未満の場合は、取締役賞与は支給しない。)に従って計算しており、取締役の報酬等の額に、役員賞与として71百万円が含まれております。

役員ごとの連結報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が専ら株式の価値の変動又は配当の受領によって利益を得ることを目的とする純投資目的の投資株式(純投資株式)と、それ以外の保有目的が純投資目的以外の投資株式(政策保有株式)に区分しています。

保有株式が純投資目的以外の目的である投資株式

- a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、取引先との安定的・長期的な取引関係の維持・強化等の観点から必要と判断される場合、当該取引先等の株式等を取得し保有しております。

取引先株式の取得、縮減に関しては、当社との関係性を勘案し、担当役員・関連部門での協議を経て、経営判断をしています。

政策保有株式については、保有目的に照らして保有することが適切か否か、保有に伴う便益やリスクを検証し、取締役会において定期的に報告を行っております。

- b. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表 計上額の合計額 (百万円)
非上場株式	12	48
非上場株式以外の株式	26	5,591

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る 取得価額の合計額 (百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	2	100	原材料の共同購入および技術交流の実績があり、今後の安定的・長期的な取引関係の構築等に必要であると判断したため株式を購入した。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る 売却価額の合計額 (百万円)
非上場株式	-	-
非上場株式以外の株式	3	113

c. 特定投資株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
日本ゼオン(株)	1,138,000	1,138,000	技術交流ならびに取引等があり、安定的な 関係構築のため保有	有
	1,274	1,750		
(株)A D E K A	656,800	656,800	技術交流ならびに取引等があり、安定的な 関係構築のため保有	有
	1,065	1,259		
(株)群馬銀行	1,207,439	1,207,439	主要な取引金融機関であり、安定的な関係 構築のため保有	有
	505	729		
カーリットホール ディングス(株)	464,900	400,000	技術交流があり、地域的かつ歴史的な親密 先でもあり、安定的な関係構築のため保有	有
	361	434		
(株)中国銀行	305,200	305,200	主要な取引金融機関であり、安定的な関係 構築のため保有	有
	317	382		
古河機械金属(株)	195,600	195,600	技術交流ならびに取引等があり、安定的な 関係構築のため保有	有
	272	388		
澁澤倉庫(株)	150,000	150,000	澁澤倉庫(株)の関係会社と物流等の取引が あり、安定的な関係構築のため保有	有
	252	270		
古河電気工業(株)	75,000	75,000	技術交流ならびに取引等があり、安定的な 関係構築のため保有	有
	209	428		
三井住友トラスト ホールディングス(株)	45,000	45,000	主要な取引金融機関であり、安定的な関係 構築のため保有	有
	178	193		
デンカ(株)	49,291	49,291	地域における主要な関係先であり、関係性 の維持・強化を目的として保有	有
	157	175		
三菱商事(株)	46,000	46,000	主に基礎化学品事業セグメントにおいて製 品販売、原材料購入の重要な取引先であ り、関係性の維持・強化を目的として保有	有
	141	131		
大陽日酸(株)	81,000	81,000	精密化学品事業セグメントにおいて製品販 売の重要な取引先であり、関係性の維持強 化を目的として保有	有
	136	130		
日本化学産業(株)	100,000	100,000	技術交流先であり、安定的な関係構築のた め保有	有
	111	131		
テイカ(株)	33,500	33,500	原材料購入の取引先であり、関係性の維 持・強化を目的として保有	有
	85	94		
(株)みずほフィナン シャルグループ	486,063	486,063	主要な取引金融機関であり、関係性の維 持・強化を目的として保有	有
	83	93		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株 式の保有 の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
日本農薬(株)	174,200	282,400	技術交流先であり、安定的な関係構築のため保有	有
	77	176		
岩谷産業(株)	20,000	20,000	精密化学品事業セグメントにおいて製品の重要な需要家であり、関係性の維持・強化を目的として保有	有
	71	78		
横浜ゴム(株)	30,187	30,187	技術交流先であり、安定的な関係構築のため保有	有
	62	74		
(株)大阪ソーダ	19,100	-	基礎化学品事業セグメントにおいて原材料を共同で購入しており、関係性の維持・強化を目的として保有	有
	51	-		
ソーダニッカ(株)	66,805	66,805	基礎化学品事業セグメントにおいて製品販売、原材料購入の重要な取引先であり、関係性の維持・強化を目的として保有	有
	38	51		
宇部興産(株)	16,628	16,628	精密化学品事業セグメントにおいて製品の重要な需要家であり、関係性の維持・強化を目的として保有	無
	37	41		
(株)東京海上ホールディングス	6,300	6,300	損害保険の引受先であり、安定的な関係構築のため保有	有
	33	29		
富士電機(株)	10,600	53,000	技術交流ならびに取引等があり、安定的な関係構築のため保有	有
	33	38		
(株)巴川製紙所	20,000	100,000	鉄系事業セグメントにおいて製品販売の重要な取引先であり、関係性の維持・強化を目的として保有	有
	19	27		
中国電力(株)	6,300	6,300	原材料購入の取引先であり、関係性の維持・強化を目的として保有	無
	8	8		
J F E コンテナ (株)	1,000	1,000	原材料購入の取引先であり、関係性の維持・強化を目的として保有	有
	3	4		

(注) 定量的な保有効果については検証が困難であります。政策保有株式の保有の合理性については、毎年、全銘柄について、保有に伴う便益やリスクが保有目的に見合っているかを総合的に検証し、検証結果を取締役に報告しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

なお、新日本有限責任監査法人は、名称変更により、平成30年7月1日をもって、EY新日本有限責任監査法人となりました。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、または会計基準等の変更等についての的確に対応できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、監査法人等が主催する研修会への参加並びに会計専門書の定期購読を行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,454	18,409
受取手形及び売掛金	7 14,142	7 15,219
電子記録債権	641	792
商品及び製品	2,838	3,494
仕掛品	4,333	4,602
原材料及び貯蔵品	2,917	2,982
その他	3 1,541	3 1,489
貸倒引当金	25	25
流動資産合計	39,843	46,964
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1, 4, 5 6,138	1, 4, 5 6,348
機械装置及び運搬具（純額）	1, 4, 5 8,377	1, 4, 5 9,272
土地	4 2,573	4 2,553
リース資産（純額）	1 235	1 180
建設仮勘定	962	4,387
その他（純額）	1, 4, 5 2,251	1, 4, 5 2,965
有形固定資産合計	20,539	25,707
無形固定資産		
その他	509	419
無形固定資産合計	509	419
投資その他の資産		
投資有価証券	2, 4 8,518	2, 4 6,568
繰延税金資産	659	1,411
その他	2 554	2 534
貸倒引当金	4	4
投資その他の資産合計	9,728	8,509
固定資産合計	30,777	34,636
資産合計	70,621	81,601

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7 6,422	7 7,208
電子記録債務	840	723
短期借入金	4 4,711	4 4,210
1年内返済予定の長期借入金	4 1,271	4 1,343
リース債務	60	57
未払法人税等	1,583	1,750
役員賞与引当金	84	106
その他	3, 7 3,480	3, 7 4,854
流動負債合計	18,455	20,254
固定負債		
長期借入金	4 10,314	4 15,102
リース債務	175	122
繰延税金負債	15	15
役員退職慰労引当金	122	134
環境対策引当金	34	17
退職給付に係る負債	1,636	1,805
その他	76	49
固定負債合計	12,375	17,246
負債合計	30,830	37,501
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,877	2,877
資本剰余金	1,829	1,829
利益剰余金	30,711	36,567
自己株式	12	12
株主資本合計	35,406	41,262
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,919	1,714
為替換算調整勘定	355	15
退職給付に係る調整累計額	17	2
その他の包括利益累計額合計	3,257	1,700
非支配株主持分	1,126	1,136
純資産合計	39,790	44,100
負債純資産合計	70,621	81,601

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)		(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)	
売上高		51,309		55,200
売上原価	1	35,270	1	38,333
売上総利益		16,038		16,867
販売費及び一般管理費	2, 3	6,990	2, 3	7,419
営業利益		9,047		9,447
営業外収益				
受取利息		7		6
受取配当金		155		173
為替差益		-		95
デリバティブ評価益		81		-
試作品売却益		67		-
雑収入		158		182
営業外収益合計		470		458
営業外費用				
支払利息		111		131
為替差損		315		-
訴訟関連費用		-		64
雑損失		94		119
営業外費用合計		521		315
経常利益		8,996		9,590
特別利益				
投資有価証券売却益		-		66
特別利益合計		-		66
特別損失				
固定資産除却損	4	154	4	182
特別損失合計		154		182
税金等調整前当期純利益		8,842		9,473
法人税、住民税及び事業税		2,688		3,041
法人税等調整額		23		232
法人税等合計		2,712		2,808
当期純利益		6,129		6,665
非支配株主に帰属する当期純利益		13		113
親会社株主に帰属する当期純利益		6,116		6,552

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
当期純利益	6,129	6,665
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	667	1,279
為替換算調整勘定	334	392
退職給付に係る調整額	90	20
その他の包括利益合計	1, 2 1,093	1, 2 1,652
包括利益	7,222	5,013
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	7,174	4,995
非支配株主に係る包括利益	47	17

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,877	1,816	25,169	12	29,851
当期変動額					
剰余金の配当			575		575
親会社株主に帰属する 当期純利益			6,116		6,116
自己株式の取得				0	0
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		13			13
子会社の新規連結に伴う減 少高					-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	13	5,541	0	5,554
当期末残高	2,877	1,829	30,711	12	35,406

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	2,257	50	108	2,199	1,118	33,169
当期変動額						
剰余金の配当						575
親会社株主に帰属する 当期純利益						6,116
自己株式の取得						0
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動						13
子会社の新規連結に伴う減 少高						-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	661	305	90	1,058	8	1,066
当期変動額合計	661	305	90	1,058	8	6,621
当期末残高	2,919	355	17	3,257	1,126	39,790

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,877	1,829	30,711	12	35,406
当期変動額					
剰余金の配当			690		690
親会社株主に帰属する当期純利益			6,552		6,552
自己株式の取得					-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動					-
子会社の新規連結に伴う減少高			5		5
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	5,856	-	5,856
当期末残高	2,877	1,829	36,567	12	41,262

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	2,919	355	17	3,257	1,126	39,790
当期変動額						
剰余金の配当						690
親会社株主に帰属する当期純利益						6,552
自己株式の取得						-
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動						-
子会社の新規連結に伴う減少高						5
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	1,205	371	20	1,557	10	1,547
当期変動額合計	1,205	371	20	1,557	10	4,309
当期末残高	1,714	15	2	1,700	1,136	44,100

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	8,842	9,473
減価償却費	4,381	5,050
受取利息及び受取配当金	163	179
支払利息	111	131
固定資産除却損	154	182
投資有価証券売却損益(は益)	-	66
売上債権の増減額(は増加)	1,879	1,351
たな卸資産の増減額(は増加)	1,815	1,084
仕入債務の増減額(は減少)	170	855
その他の流動資産の増減額(は増加)	228	28
その他の流動負債の増減額(は減少)	16	277
その他	373	168
小計	9,963	13,486
利息及び配当金の受取額	163	179
利息の支払額	116	127
法人税等の支払額	2,766	2,874
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,243	10,664
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	6,744	9,079
投資有価証券の取得による支出	16	117
投資有価証券の売却による収入	-	113
子会社株式の取得による支出	215	-
その他	496	231
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,472	9,315
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	28	501
長期借入れによる収入	7,660	6,148
長期借入金の返済による支出	3,869	1,271
配当金の支払額	575	690
非支配株主への配当金の支払額	21	7
子会社の自己株式の取得による支出	4	-
その他	174	60
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,043	3,616
現金及び現金同等物に係る換算差額	97	242
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,911	4,723
現金及び現金同等物の期首残高	10,242	13,154
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	-	212
現金及び現金同等物の期末残高	13,154	18,090

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

関電興産(株)

(株)上備製作所

森下弁柄工業(株)

関東電化KOREA(株)

台湾関東電化股份有限公司

関東電化ファインプロダクツ韓国(株)

非連結子会社でありました関東電化ファインプロダクツ韓国(株)の重要性が増したため、当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社名

関東電化産業(株)

(株)群馬鉄工所

カンデン水島産業(株)

カンデン渋川産業(株)

科地克(上海)貿易有限公司

連結の範囲から除いた理由

非連結子会社は、いずれも小規模会社であり、合計の総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の非連結子会社はありません。

また、関連会社はありません。

持分法を適用しない非連結子会社

関東電化産業(株)

(株)群馬鉄工所

カンデン水島産業(株)

カンデン渋川産業(株)

科地克(上海)貿易有限公司

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない非連結子会社は、それぞれ当期純損益及び利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3. 連結子会社の事業年度に関する事項

関東電化KOREA(株)、台湾関東電化股份有限公司及び関東電化ファインプロダクツ韓国(株)の決算日は12月31日であります。連結財務諸表を作成するにあたっては同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品

主として月別移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

主として定額法を採用しております。

ただし、精密化学品事業部門の「機械装置」は定率法を採用しております。

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。

役員退職慰労引当金

連結子会社の役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく基準額を計上しております。

環境対策引当金

将来の環境対策に要する支出に備えるため、当連結会計年度末において発生していると認められる金額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日翌連結会計年度より費用処理することとしております。

過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。

ただし、特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

当連結会計年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段：金利スワップ

ヘッジ対象：借入金の利息

ヘッジ方針

主に、金利変動リスクへの対応手段として、デリバティブ取引管理規程に基づき、金利変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続してキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができるため、ヘッジ有効性の判定は省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) 消費税等の会計処理

税抜き方式を採用しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 平成30年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

令和4年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」が540百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が493百万円増加しております。また、「流動負債」の「その他」が0百万円減少し、「固定負債」の「繰延税金負債」が46百万円減少しております。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺して表示しており、変更前と比べて総資産が46百万円減少しております。

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
有形固定資産の減価償却累計額	69,560百万円	73,031百万円

2 非連結子会社に対するもの

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
投資有価証券(株式)	266百万円	51百万円
投資その他の資産その他(出資金)	70 "	70 "

3 未収消費税等は、流動資産の「その他」に、未払消費税等は流動負債の「その他」に含めて表示しております。

4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
建物及び構築物	5,356百万円 (5,326百万円)	5,609百万円 (5,581百万円)
機械装置及び運搬具	8,054 " (8,054 ")	8,959 " (8,959 ")
土地	1,334 " (1,255 ")	1,334 " (1,255 ")
有形固定資産その他	2,185 " (2,185 ")	2,905 " (2,905 ")
投資有価証券	754 " (- ")	532 " (- ")
計	17,685百万円 (16,821百万円)	19,341百万円 (18,702百万円)

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
短期借入金	622百万円 (602百万円)	622百万円 (602百万円)
1年以内返済予定の長期借入金	1,141 " (1,129 ")	1,217 " (1,216 ")
長期借入金	10,045 " (10,044 ")	13,828 " (13,828 ")
計	11,809百万円 (11,776百万円)	15,667百万円 (15,646百万円)

上記のうち、()は内数で工場財団抵当並びに当該債務を示しております。

5 圧縮記帳

国庫補助金による圧縮記帳累計額は次のとおりであり、連結貸借対照表計上額はこの圧縮記帳累計額を控除しております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
建物及び構築物	57百万円	56百万円
機械装置及び運搬具	1,207 "	1,218 "
有形固定資産その他	26 "	26 "
計	1,291百万円	1,301百万円

6 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行とコミットメントライン(特定融資枠)契約を締結しております。この契約に基づく連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
コミットメントライン契約の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	- "	- "
差引額	3,000百万円	3,000百万円

7 連結会計年度末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
受取手形	241百万円	156百万円
支払手形	184 "	186 "
設備関係支払手形(流動負債その他)	97 "	48 "

(連結損益計算書関係)

- 1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
たな卸資産評価損	47百万円	49百万円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
発送諸掛	1,989百万円	2,120百万円
従業員給与等	1,165 "	1,199 "
役員賞与引当金繰入額	84 "	106 "
退職給付費用	111 "	99 "
研究開発費	1,130 "	1,211 "

- 3 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

	前連結会計年度 (自平成29年4月1日 至平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自平成30年4月1日 至平成31年3月31日)
一般管理費に含まれる研究開発費の総額	1,130百万円	1,211百万円

- 4 固定資産除却損

機械装置等の除却損であります。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	961百万円	1,927百万円
組替調整額	- "	66 "
計	961 "	1,861 "
為替換算調整勘定：		
当期発生額	334 "	392 "
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	74 "	0 "
組替調整額	56 "	28 "
計	130 "	28 "
税効果調整前合計	1,426 "	2,225 "
税効果額	333 "	572 "
その他の包括利益合計	1,093百万円	1,652百万円

2 その他の包括利益に係る税効果額

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
その他有価証券評価差額金：		
税効果調整前	961百万円	1,861百万円
税効果額	293 "	581 "
税効果調整後	667 "	1,279 "
為替換算調整勘定：		
税効果調整前	334 "	392 "
税効果額	- "	- "
税効果調整後	334 "	392 "
退職給付に係る調整額：		
税効果調整前	130 "	28 "
税効果額	39 "	8 "
税効果調整後	90 "	20 "
その他の包括利益合計		
税効果調整前	1,426 "	2,225 "
税効果額	333 "	572 "
税効果調整後	1,093百万円	1,652百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	57,546,050	-	-	57,546,050
合計	57,546,050	-	-	57,546,050
自己株式				
普通株式(注)	22,530	1	-	22,531
合計	22,530	1	-	22,531

(注) 普通株式の自己株式の増加1株は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年5月26日 取締役会	普通株式	287	5	平成29年3月31日	平成29年6月30日
平成29年11月14日 取締役会	普通株式	287	5	平成29年9月30日	平成29年12月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	効力発生日	基準日	配当の原資
平成30年5月25日 取締役会	普通株式	345	6	平成30年6月29日	平成30年3月31日	利益剰余金

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	57,546,050	-	-	57,546,050
合計	57,546,050	-	-	57,546,050
自己株式				
普通株式	22,531	-	-	22,531
合計	22,531	-	-	22,531

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成30年5月25日 取締役会	普通株式	345	6	平成30年3月31日	平成30年6月29日
平成30年11月14日 取締役会	普通株式	345	6	平成30年9月30日	平成30年12月10日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	効力発生日	基準日	配当の原資
令和元年5月28日 取締役会	普通株式	402	7	令和元年6月28日	平成31年3月31日	利益剰余金

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
現金及び預金勘定	13,454百万円	18,409百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	300 "	319 "
現金及び現金同等物	13,154百万円	18,090百万円

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

リース資産の内容

(ア)有形固定資産

主として、ホストコンピュータ及びコンピュータ端末機(工具、器具及び備品)であります。

(イ)無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
1年内	28	26
1年超	16	13
合計	45	40

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資計画に照らして、必要な資金を金融機関より調達しております。一時的な余資は主に流動性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが5ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、返済日は最長で決算日後5年であります。一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

デリバティブ取引は、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計方針に関する事項 (6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照下さい。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

顧客の信用リスクの管理は、販売管理規程に沿ってリスク低減を図っており、市場価格の変動リスクの管理は、投資有価証券について四半期ごとに時価や発行体の財務状況等の把握を行っております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2. 参照)。

前連結会計年度(平成30年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	13,454	13,454	-
(2) 受取手形及び売掛金	14,142	14,142	-
(3) 電子記録債権	641	641	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	8,203	8,203	-
資産計	36,441	36,441	-
(1) 支払手形及び買掛金	6,422	6,422	-
(2) 電子記録債務	840	840	-
(3) 短期借入金	4,711	4,711	-
(4) 長期借入金(1)	11,586	11,583	3
負債計	23,560	23,557	3
デリバティブ取引(2)	3	3	-

(1) 1年以内に返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

当連結会計年度(平成31年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	18,409	18,409	-
(2) 受取手形及び売掛金	15,219	15,219	-
(3) 電子記録債権	792	792	-
(4) 投資有価証券 その他有価証券	6,468	6,468	-
資産計	40,889	40,889	-
(1) 支払手形及び買掛金	7,208	7,208	-
(2) 電子記録債務	723	723	-
(3) 短期借入金	4,210	4,210	-
(4) 長期借入金(1)	16,445	16,465	19
負債計	28,587	28,607	19
デリバティブ取引(2)	(19)	(19)	-

(1) 1年以内に返済予定の長期借入金は、長期借入金に含めております。

(2) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。

負 債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 電子記録債務、(3) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
非上場株式	314	99

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「資産(4) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額
 前連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内(百万円)	1年超(百万円)
預金	13,454	-
受取手形及び売掛金	14,142	-
合計	27,597	-

当連結会計年度(平成31年3月31日)

	1年以内(百万円)	1年超(百万円)
預金	18,409	-
受取手形及び売掛金	15,219	-
合計	33,629	-

4. 社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度(平成30年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,711	-	-	-	-	-
長期借入金	1,271	1,317	3,276	3,233	2,488	-
リース債務	60	56	53	40	7	16
合計	6,043	1,373	3,329	3,273	2,495	16

当連結会計年度(平成31年3月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	4,210	-	-	-	-	-
長期借入金	1,343	3,570	5,255	4,510	1,765	-
リース債務	57	54	41	8	6	11
合計	5,610	3,625	5,297	4,518	1,772	11

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成30年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	7,362	2,980	4,382
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	103	99	3
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	7,465	3,080	4,385
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	737	754	17
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	737	754	17
合計		8,203	3,834	4,368

当連結会計年度(平成31年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	5,514	2,658	2,855
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	102	99	2
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	5,616	2,758	2,857
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	851	1,146	294
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	851	1,146	294
合計		6,468	3,905	2,563

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	113	66	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

前連結会計年度(平成30年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	NDF取引 売建 台湾ドル	1,240	-	3	3
	為替予約取引 買建 円	12	-	0	0
合計		1,252	-	3	3

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成31年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額のうち 1年超(百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	NDF取引 売建 台湾ドル	1,144	-	19	19
合計		1,144	-	19	19

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

金利関連

前連結会計年度(平成30年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	588	68	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成31年3月31日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ対象	契約額等(百万円)	契約額等のうち1年超(百万円)	時価(百万円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	68	-	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定給付企業年金制度及び退職一時金制度を設けております。

当社は、確定給付企業年金制度についてポイント制を導入しております。

また、一部の連結子会社は退職一時金制度を設けるとともに、勤労者退職金共済機構に加入しております。

なお、連結子会社は簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
退職給付債務の期首残高	4,061百万円	4,213百万円
勤務費用	318 "	330 "
利息費用	19 "	20 "
数理計算上の差異の発生額	24 "	45 "
退職給付の支払額	213 "	106 "
過去勤務費用の発生額	- "	- "
その他	2 "	2 "
退職給付債務の期末残高	4,213百万円	4,410百万円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成29年 4月 1日 至 平成30年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年 4月 1日 至 平成31年 3月31日)
年金資産の期首残高	2,397百万円	2,577百万円
期待運用収益	26 "	29 "
数理計算上の差異の発生額	99 "	45 "
事業主からの拠出額	106 "	107 "
退職給付の支払額	55 "	62 "
その他	2 "	2 "
年金資産の期末残高	2,577百万円	2,605百万円

(3) 退職給付債務及び年金資産と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (平成30年 3月31日)	当連結会計年度 (平成31年 3月31日)
積立型制度の退職給付債務	4,114百万円	4,309百万円
年金資産	2,577 "	2,605 "
	1,536 "	1,703 "
非積立型制度の退職給付債務	99 "	101 "
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	1,636百万円	1,805百万円
退職給付に係る負債	1,636百万円	1,805百万円
連結貸借対照表に計上された 負債と資産の純額	1,636百万円	1,805百万円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
勤務費用	318百万円	330百万円
利息費用	19 "	20 "
期待運用収益	26 "	29 "
数理計算上の差異の費用処理額	86 "	59 "
過去勤務費用の費用処理額	30 "	30 "
確定給付制度に係る退職給付費用	366百万円	350百万円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
過去勤務費用	30百万円	30百万円
数理計算上の差異	161 "	59 "
合計	130百万円	28百万円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
未認識過去勤務費用	361百万円	330百万円
未認識数理計算上の差異	386 "	327 "
合計	25百万円	3百万円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
債券	25%	24%
株式	32 "	32 "
合同運用口	34 "	34 "
一般勘定	7 "	7 "
その他	2 "	3 "
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
割引率	0.5%	0.5%
長期期待運用収益率	1.17 "	1.17 "
予想昇給率	7.7 "	7.7 "

(注) 予想昇給率は、ポイント制度に基づき算定しております。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当連結会計年度 (平成31年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付に係る負債	481百万円	543百万円
未払費用	274 "	281 "
未払事業税	29 "	35 "
たな卸資産評価損	16 "	17 "
投資有価証券評価損	48 "	48 "
未実現利益	354 "	436 "
減価償却超過額	490 "	605 "
減損損失	508 "	410 "
事業構造改善費用	70 "	56 "
その他	211 "	244 "
繰延税金資産小計	2,484百万円	2,680百万円
評価性引当額	263 "	272 "
繰延税金資産合計	2,221百万円	2,407百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,255百万円	724百万円
在外連結子会社の留保利益	322 "	287 "
繰延税金負債合計	1,577百万円	1,011百万円
繰延税金資産又は繰延税金負債の純額	644百万円	1,396百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度(平成30年3月31日)および当連結会計年度(平成31年3月31日)においては、ともに法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、事業別のセグメントから構成されており、「基礎化学品事業」、「精密化学品事業」、「鉄系事業」、「商事事業」、及び「設備事業」を報告セグメントとしております。

「基礎化学品事業」は、無機・有機化学薬品等の基礎化学品の製造販売を行っております。「精密化学品事業」は、フッ素系ガスおよび電池材料等の精密化学品の製造販売を行っております。「鉄系事業」は鉄系製品の製造販売を行っております。「商事事業」は、基礎化学品、精密化学品の販売及び容器の整備等を行っております。「設備事業」は設備関連の工事を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
 前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,019	37,933	2,513	2,315	2,527	51,309	-	51,309
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,215	157	83	3,873	2,407	7,737	7,737	-
計	7,234	38,090	2,596	6,188	4,935	59,046	7,737	51,309
セグメント利益又は 損失()	44	8,456	547	94	106	9,160	112	9,047
セグメント資産	8,746	51,373	3,275	2,513	5,431	71,340	718	70,621
その他の項目								
減価償却費	592	3,831	61	51	29	4,566	184	4,381
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	1,061	5,066	189	89	48	6,454	276	6,177

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 112百万円は、セグメント間取引消去であります。
 セグメント資産の調整額 718百万円は、セグメント間消去 2,916百万円、各報告セグメントに配分してい
 ない全社資産2,197百万円が含まれております。
 その他の項目の減価償却費の調整額 184百万円は、セグメント間消去であります。
 その他の項目の有形固定資産および無形固定資産の増加額の調整額 276百万円は、セグメント間消去であ
 ります。
2. セグメント利益又は損失は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	連結財務諸表 計上額 (注)2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	6,818	41,400	2,483	2,341	2,155	55,200	-	55,200
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,308	147	66	4,241	2,578	8,342	8,342	-
計	8,126	41,548	2,550	6,582	4,734	63,543	8,342	55,200
セグメント利益	271	8,352	463	126	342	9,556	108	9,447
セグメント資産	9,739	63,083	3,352	2,785	5,645	84,607	3,006	81,601
その他の項目								
減価償却費	688	4,407	78	54	33	5,262	211	5,050
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	977	9,405	76	34	59	10,553	310	10,243

- (注) 1. セグメント利益の調整額 108百万円は、セグメント間取引消去であります。
 セグメント資産の調整額 3,006百万円は、セグメント間消去 5,515百万円、各報告セグメントに配分してい
 ない全社資産2,509百万円が含まれております。
 その他の項目の減価償却費の調整額 211百万円は、セグメント間消去であります。
 その他の項目の有形固定資産および無形固定資産の増加額の調整額 310百万円は、セグメント間消去であ
 ります。
2. セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	欧米	その他	合計
25,930	24,461	918	-	51,309

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. アジア地域への売上高には、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める韓国の売上高11,954百万円、台湾の売上高5,857百万円、中国の売上高6,183百万円が含まれております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Samsung Electronics Co., Ltd.	9,396	精密化学品事業

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報の中で同様の情報が開示されているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア	欧米	その他	合計
28,970	24,131	2,099	-	55,200

(注) 1. 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. アジア地域への売上高には、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める韓国の売上高13,952百万円、台湾の売上高6,073百万円が含まれております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア	合計
21,636	4,071	25,707

(注) アジア地域の有形固定資産には、連結貸借対照表の有形固定資産の10%以上を占める韓国の有形固定資産4,067百万円が含まれております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Samsung Electronics Co., Ltd.	11,076	精密化学品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
 該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
 該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)
 該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
 該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

1. 関連当事者との取引

該当事項はありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

1. 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	木村 博紀			当社監査役 朝日生命保険 (相)代表取締役 役社長		資金の 借入	資金の借入 (注3)	1,100	長期借入金 (注4)	3,348
							資金の返済 (注3)	299		
							利息の支払 (注3)	30		

(注1)上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(注2)上記の取引は、木村博紀氏が第三者(朝日生命保険(相)：当社の議決権の6.21%を保有)の代表者として
 行った取引です。

(注3)資金の借入については、市場金利等を勘案して合理的に決定しております。

(注4)1年以内返済予定分を含んでおります。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
1株当たり純資産額	672円14銭	746円88銭
1株当たり当期純利益	106円33銭	113円91銭

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	6,116	6,552
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(百万円)	6,116	6,552
普通株式の期中平均株式数(株)	57,523,520	57,523,519

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	4,711	4,210	0.6	
1年以内に返済予定の長期借入金	1,271	1,343	1.1	
1年以内に返済予定のリース債務	60	57	-	
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く)	10,314	15,102	1.0	令和3年～6年
リース債務 (1年以内に返済予定のものを除く)	175	122	-	令和2年～8年
合計	16,532	20,835	-	

- (注) 1. 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。
 3. 長期借入金及びリース債務(いずれも1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	3,570	5,255	4,510	1,765
リース債務	54	41	8	6

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	13,225	26,408	40,374	55,200
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円)	2,854	5,195	6,913	9,473
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,972	3,652	4,852	6,552
1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	34.29	63.49	84.36	113.91

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	34.29	29.20	20.87	29.55

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,725	11,672
受取手形	7 1,155	7 981
電子記録債権	531	691
売掛金	3 11,963	3 13,659
商品及び製品	1,840	2,139
仕掛品	3,537	3,632
原材料及び貯蔵品	2,710	2,794
前渡金	187	3
前払費用	160	154
その他	3, 6 1,073	3, 6 755
貸倒引当金	13	15
流動資産合計	31,873	36,468
固定資産		
有形固定資産		
建物	1, 5 4,394	1, 5 4,430
構築物	1, 5 1,401	1, 5 1,600
機械及び装置	1, 5 8,636	1, 5 9,666
車両運搬具	51	39
工具、器具及び備品	1, 5 2,269	1, 5 2,960
土地	1 1,979	1 1,979
リース資産	173	130
建設仮勘定	951	855
有形固定資産合計	19,858	21,662
無形固定資産		
ソフトウェア	482	400
その他	5	5
無形固定資産合計	487	405
投資その他の資産		
投資有価証券	1 7,200	1 5,640
関係会社株式	503	2,560
関係会社出資金	70	70
関係会社長期貸付金	-	3 1,117
従業員長期貸付金	11	10
長期前払費用	128	96
繰延税金資産	601	1,202
その他	137	129
貸倒引当金	2	3
投資その他の資産合計	8,650	10,823
固定資産合計	28,996	32,891
資産合計	60,870	69,360

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成30年3月31日)		当事業年度 (平成31年3月31日)	
負債の部				
流動負債				
支払手形	7	262	7	252
電子記録債務	3	1,091	3	946
買掛金	3	3,610	3	3,690
短期借入金	1	3,151	1	3,050
1年内返済予定の長期借入金	1	1,129	1	1,216
リース債務		47		47
未払金	3	1,302	3	1,461
未払費用	3	1,032	3	1,074
未払法人税等		1,524		1,494
デリバティブ債務		-		19
預り金		51		50
設備関係支払手形	7	135	7	207
設備関係電子記録債務	3	1,658	3	1,669
役員賞与引当金		72		72
流動負債合計		15,069		15,254
固定負債				
長期借入金	1	10,044	1	13,828
リース債務		126		83
退職給付引当金		1,511		1,706
環境対策引当金		34		17
資産除去債務		28		-
その他		47		49
固定負債合計		11,793		15,684
負債合計		26,863		30,939
純資産の部				
株主資本				
資本金		2,877		2,877
資本剰余金				
資本準備金		1,524		1,524
資本剰余金合計		1,524		1,524
利益剰余金				
利益準備金		436		436
その他利益剰余金				
配当準備金		371		371
別途積立金		4,608		4,608
繰越利益剰余金		21,513		27,049
利益剰余金合計		26,929		32,465
自己株式		12		12
株主資本合計		31,318		36,855
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		2,688		1,565
評価・換算差額等合計		2,688		1,565
純資産合計		34,007		38,421
負債純資産合計		60,870		69,360

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当事業年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
売上高	1 46,652	1 50,632
売上原価	1 32,440	1 35,752
売上総利益	14,211	14,879
販売費及び一般管理費	1, 2 5,756	1, 2 5,980
営業利益	8,455	8,899
営業外収益		
受取利息	0	4
受取配当金	1 646	1 204
雑収入	1 210	1 152
営業外収益合計	856	361
営業外費用		
支払利息	98	119
為替差損	91	-
支払手数料	48	20
訴訟関連費用	-	64
雑損失	42	84
営業外費用合計	280	289
経常利益	9,031	8,971
特別利益		
投資有価証券売却益	-	66
特別利益合計	-	66
特別損失		
固定資産除却損	177	203
特別損失合計	177	203
税引前当期純利益	8,853	8,834
法人税、住民税及び事業税	2,546	2,716
法人税等調整額	16	108
法人税等合計	2,530	2,607
当期純利益	6,323	6,226

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				配当準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,877	1,524	1,524	436	371	4,608	15,764	21,180
当期変動額								
剰余金の配当							575	575
当期純利益							6,323	6,323
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	5,748	5,748
当期末残高	2,877	1,524	1,524	436	371	4,608	21,513	26,929

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	12	25,569	2,049	2,049	27,619
当期変動額					
剰余金の配当		575			575
当期純利益		6,323			6,323
自己株式の取得	0	0			0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			638	638	638
当期変動額合計	0	5,748	638	638	6,387
当期末残高	12	31,318	2,688	2,688	34,007

当事業年度(自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金		利益準備金	利益剰余金			利益剰余金 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
				配当準備金	別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	2,877	1,524	1,524	436	371	4,608	21,513	26,929
当期変動額								
剰余金の配当							690	690
当期純利益							6,226	6,226
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	5,536	5,536
当期末残高	2,877	1,524	1,524	436	371	4,608	27,049	32,465

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	12	31,318	2,688	2,688	34,007
当期変動額					
剰余金の配当		690			690
当期純利益		6,226			6,226
自己株式の取得		-			-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			1,122	1,122	1,122
当期変動額合計	-	5,536	1,122	1,122	4,413
当期末残高	12	36,855	1,565	1,565	38,421

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式.....移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの.....決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定して
おります。)

時価のないもの.....移動平均法による原価法を採用しております。

(2) たな卸資産

商品及び製品・仕掛品・原材料及び貯蔵品.....月別移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基
づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ただし、精密化学品事業部門の「機械及び装置」は定率法を採用しております。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債
権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額の当期負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づいて計上して
おります。

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算
定式基準によっております。

過去勤務費用については、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定額法により、費
用処理することとしております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(15年)による定
額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度より費用処理することとしております。

(4) 環境対策引当金

将来の環境対策に要する支出に備えるため、当事業年度末において発生していると認められる金額を計上して
おります。

4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則として繰延ヘッジ処理によっております。ただし、特例処理の要件を満たす金利スワップについては、特例処理によっております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

当事業年度にヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下のとおりであります。

ヘッジ手段：金利スワップ

ヘッジ対象：借入金の利息

ヘッジ方針

主に、金利変動リスク及び為替変動リスクへの対応手段として、デリバティブ取引管理規程に基づき、金利変動リスク及び為替変動リスクをヘッジしております。

ヘッジ有効性評価の方法

金利スワップについてはヘッジ手段とヘッジ対象の重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続してキャッシュ・フロー変動を完全に相殺するものと想定することができるため、ヘッジ有効性の判定は省略しております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜き方式によっております。

(3) 退職給付に係る会計処理の方法

財務諸表において、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の取扱いが連結財務諸表と異なっております。個別貸借対照表上、退職給付債務に未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用を加減した額から、年金資産の額を控除した額を退職給付引当金として計上しております。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示していません。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「繰延税金資産」324百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」の601百万円に含めて表示しております。

(損益計算書関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「試作品等売却代」は重要性が乏しくなったため、当事業年度より「雑収入」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替を行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」に表示していた「試作品等売却代」67百万円は、「雑収入」の210百万円に含めて表示しております。

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
建物	3,992百万円	4,060百万円
構築物	1,382 "	1,582 "
機械及び装置	8,567 "	9,588 "
工具、器具及び備品	2,253 "	2,942 "
土地	1,255 "	1,255 "
投資有価証券	707 "	500 "
計	18,157百万円	19,929百万円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
短期借入金	602百万円	602百万円
1年以内返済予定の長期借入金	1,129 "	1,216 "
長期借入金	10,044 "	13,828 "
計	11,776百万円	15,646百万円

2 保証債務

以下の会社の金融機関からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

なお、外貨建債務保証は、連結決算日の為替相場により円換算しております。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
関東電化ファインプロダクツ韓国株	- 百万円	980百万円

3 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
短期金銭債権	3,768百万円	3,249百万円
長期金銭債権	- "	1,117 "
短期金銭債務	2,129 "	2,372 "

4 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行とコミットメントライン(特定融資枠)契約を締結しております。この契約に基づく事業年度末の借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
コミットメントライン契約の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	- "	- "
差引額	3,000百万円	3,000百万円

5 圧縮記帳

国庫補助金による圧縮記帳累計額は次のとおりであり、貸借対照表計上額はこの圧縮記帳累計額を控除しております。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
建物	51百万円	51百万円
構築物	5 "	5 "
機械及び装置	1,207 "	1,218 "
工具、器具及び備品	26 "	26 "
計	1,291百万円	1,301百万円

6 消費税等の取扱い

未収消費税等は、流動資産の「その他」に含めて表示しております。

7 事業年度末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
受取手形	185百万円	150百万円
支払手形	61 "	67 "
設備関係支払手形	97 "	48 "

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当事業年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	16,802百万円	18,527百万円
仕入高	9,120 "	7,653 "
営業取引以外の取引高	751 "	348 "

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)	当事業年度 (自 平成30年4月1日 至 平成31年3月31日)
発送諸掛	1,848百万円	1,955百万円
従業員給与等	837 "	870 "
役員賞与引当金繰入額	72 "	72 "
退職給付費用	83 "	74 "
研究開発費	1,130 "	1,211 "
減価償却費	166 "	189 "
おおよその割合		
販売費	45%	44%
一般管理費	55 "	56 "

(有価証券関係)

前事業年度(平成30年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 503百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(平成31年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 2,560百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	450百万円	511百万円
未払費用	232 "	237 "
未払事業税	27 "	26 "
たな卸資産評価損	16 "	17 "
投資有価証券評価損	43 "	43 "
減価償却超過額	459 "	574 "
減損損失	508 "	410 "
事業構造改善費用	70 "	56 "
その他	99 "	135 "
繰延税金資産小計	1,907百万円	2,015百万円
評価性引当額	164 "	169 "
繰延税金資産合計	1,742百万円	1,846百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,140百万円	643百万円
繰延税金負債合計	1,140百万円	643百万円
繰延税金資産又は繰延税金負債の純額	601百万円	1,202百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成30年3月31日)	当事業年度 (平成31年3月31日)
法定実効税率	30.7%	- %
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.1 "	- "
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	1.8 "	- "
住民税均等割	0.1 "	- "
評価性引当金の増減	0.1 "	- "
税額控除	0.8 "	- "
その他	0.4 "	- "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.6%	- %

(注) 当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	4,394	357	10	310	4,430	5,135
	構築物	1,401	344	1	144	1,600	3,175
	機械及び装置	8,636	4,685	60	3,594	9,666	53,366
	車両運搬具	51	8	-	20	39	128
	工具、器具及び備品	2,269	1,568	2	875	2,960	8,331
	土地	1,979	-	-	-	1,979	-
	リース資産	173	5	-	47	130	328
	建設仮勘定	951	6,867	6,964	-	855	-
	有形固定資産計	19,858	13,837	7,040	4,992	21,662	70,467
無形固定資産	ソフトウェア	482	49	-	131	400	-
	その他	5	-	-	-	5	-
	無形固定資産計	487	49	-	131	405	-

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

機械及び装置	洪川工場	フッ素系製品製造設備	2,483百万円
	水島工場	基礎化学品製造設備	889 "
建設仮勘定	水島工場	フッ素系製品製造設備	680 "
	洪川工場	フッ素系製造設備増強・更新工事	2,960百万円
	水島工場	フッ素系製造設備増強・更新工事	806 "
	水島工場	基礎化学品製造設備更新工事	772 "
	水島工場	電池材料製造設備増強・更新工事	675 "

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金(流動)	13	15	13	15
貸倒引当金(固定)	2	3	2	3
合計	15	18	15	18
役員賞与引当金	72	72	72	72
環境対策引当金	34	6	23	17

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	中間配当 9月30日 期末配当 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.kantodenka.co.jp/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第111期)(自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日)平成30年6月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成30年6月28日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

(第112期第1四半期)(自 平成30年4月1日 至 平成30年6月30日)平成30年8月10日関東財務局長に提出。

(第112期第2四半期)(自 平成30年7月1日 至 平成30年9月30日)平成30年11月14日関東財務局長に提出。

(第112期第3四半期)(自 平成30年10月1日 至 平成30年12月31日)平成31年2月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成30年6月29日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

令和元年 6月27日

関東電化工業株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 米 村 仁 志

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本 多 茂 幸

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている関東電化工業株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、関東電化工業株式会社及び連結子会社の平成31年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、関東電化工業株式会社の平成31年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、関東電化工業株式会社が平成31年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

令和元年 6月27日

関東電化工業株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 米 村 仁 志

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 本 多 茂 幸

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている関東電化工業株式会社の平成30年4月1日から平成31年3月31日までの第112期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、関東電化工業株式会社の平成31年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。